新撰東京名所圖會

第五十三編

臨時增刊 風俗畫報 第三百八十二編

下谷區之部 其三

明治四十一年三月廿五日 東陽堂發行

毎月二回計發行明治廿五年三月廿六日第三種郵便物認可風俗畫報第三百八十二編明治四十一年三月二十五日發行

此廣告を見て御取引の御方は「風俗畫報」廣告に據る旨御附記を乞ふ

毎月二回（十日廿五日）發行（明治廿五年三月廿六日第三種郵便物認可）風俗畫報第三百八十二號明治四十一年三月二十五日發行

●寶丹は原『コレラ病』の豫防藥として發賣せし良劑なるに●中暑●霍亂●痢病●吐瀉症●中毒●心腹痛其他の諸症に大効を奏し普く世人の賞用せらるゝところ今また左の如く新たなる効驗は發見せられたり

日本體育會より御信書の附言

御專賣の寶丹は殺菌力強く且つ細胞の活動を喚起するの効あるを以て肺病の豫防にも適劑なることを確め候間乍序申添候云々

故に寶丹は軍隊・學校・集會・宴席・寄席等は勿論家庭衛生の常備藥として缺くべからざる良劑也

各地に同名異人の守田治兵衛あるひは守田堂其他一見視誤やすき體裁にせる類似藥これあり候あいだ御購求の際東京池之端『仲町二拾七號所有地守田治兵衛』と包紙歐文の中央赤色に印刷並に輕銀ニューム器に印鐫ある商標御檢認の上何卒御愛顧奉願上候

寶丹本舖

東京市下谷區池之端仲町二拾七號所有地

守田治兵衛

風俗畫報增刊
第三百八十二號

新撰東京名所圖會

明治四十一年
三月廿五日發行

第五拾三編　目次

○下谷區の部其三

◎記事
●上野東黒門町
位置及地勢
町名の起原並沿革
景況
舊上野廣小路の景況
舊御成街道
●上野西黒門町
位置及地勢
町名の起原並沿革
景況
下谷警察署
●上野南大門町
位置及地勢
町名の起原並沿革
●上野北大門町
位置及地勢
町名の起原並沿革
景況
●上野元黒門町
位置及地勢
町名の起原並沿革
景況
●上野廣小路町
位置及地勢
町名の起原並沿革
景況
常樂院
●上野三橋町
位置及地勢
町名の起原並沿革
景況
三橋
龍門橋
●上野山下町
位置及地勢
町名の起原並沿革
鐵道國有線上野停車場
山下の舊況
山下火除地
下寺
●上野櫻木町
位置及地勢
町名の起原
景況
御隱殿坂
芋坂
鶯谷
櫻川
東京樂學校
丸茂病院
●上野花園町
位置及地勢
町名の起原並沿革
●谷中清水町
位置及地勢
町名の起原幷沿革
景況
櫻下稻荷神社
●谷中坂町
位置及地勢
町名の起原並沿革
善光寺坂
諸寺院
●谷中眞島町
位置及地勢
町名の起原並沿革
三浦坂
●谷中三崎町
位置及地勢
町名の起原並沿革
三崎坂
諸寺院
瘡子藥王菩薩
●谷中三崎南町
位置及地勢
町名の起原並沿革
諸寺院
●谷中三崎北町
位置及地勢
町名の起原並沿革
●谷中初音町
位置及地勢
町名の起原並沿革
景況
諸寺院
鶯澤
鶯谷
野中の井
お菊の墓
●谷中茶屋町
位置及地勢
町名の起原並沿革
いろは茶屋
●谷中天王寺町
位置及地勢
町名の起原並沿革
景況
天王寺
谷中五重塔
天王寺の富突
谷中墓地
●谷中町
位置及地勢
町名の起原並沿革
諸寺院
●下谷區内有名の墳墓
◎口畫
●上野停車場
◎挿畫
●谷中天王寺
○東叡山黒門前（忍川三橋）○常應院○上野山下○東叡山坂本口○鶯澤○鶯大明神○鶯大明神祭
◎寫眞
●縣利支天堂●三橋●常樂院●北大門町通●上野廣小路●北大門町池之端通●上野公園入口●上野停車場●山下町通●清水橋●一乘院●瘡子稻荷社●鶯溪●割烹店ゑほ原●日本女子美術學校●天王寺入口●下谷淺草附近遠望●天王寺五重塔

上野停車場

○下谷區の部　其三

◉上野東黑門町

◎位置及地勢

上野東黑門町東は下谷阪町に對し、西は大路を隔てゝ西黑門町に面し。南は神田區に界し。北は斗出して廣小路町北大門町の街角に當れり。地勢は平坦にて。電車線路其の西を經過す。土地の番號は一より三十三に至る。

◎町名の起原並沿革

上野東黑門町往古下谷村の内にして、寶永三年市街地と爲し。元黑門町に對して。新黑門町と稱したり。明治二年に至り。東西の二町に區分し。今の名に改む。同五年東隣の華族鳥居氏の邸地を併合せり。

◎景況

當町は西北の兩面大路に當り。神田より上野に交通する要路なるを以て。各營業店櫛比せり。一番地に旅舍和泉館、西多摩館四番地に東臺銀行（資本金十萬圓三十二年十二月十六日設立）旅舍金井文太郎。六番地に中村工場。七番地に名物風船あられ東英堂。八番地に打物久光本店。十番地に封筒問屋西村利平同工場。十四番地にえるこ常磐屋。十五番地に遠田出張所。菓子金澤屋。十九番地に酒商伊勢榮。紀の善すし、ビーアホール新集館。質商阿曾。二十二番地に美術商會。二十五番地に醫師橋内茂重氏等あり。

○舊上野廣小路の景況

北大門町に昔時有名なる燒芋屋あり。當時切燒は五十文ほど買ふ時は。三十五六本もありたり。然るに此店に限り。大小共に丸燒にて。且つ秤に掛けて賣るを例とし。大は一本凡そ百文。小は凡五十文なれば。市童などの買に來る者なし。大抵は蒔繪の重箱を携へ諸邸より買に來る者多かりしよし。其の甘藷は川越の本場にて。釜と焚物が他と異なり居るとの說なり。味は殊にすぐれ。栗よりも好味なりしと傳ふ。其の隣家は上野御用の造花師にて。又茗荷屋肥後といふあり。同じく上野御用達の菓子屋なりし。此側は水茶屋にて。其の隣は名主岡部助左衞門の宅にて。玄關に高張提燈を出しあり。其の先こそ近頃まで殘りし會席茶屋鳥八十なりき。

又廣小路東側の角は。今も依然たるいとう松阪の呉服店にて。其の先に三橋亭といへる色物の寄席あり。又六阿彌陀横丁今の瓦煎餅の處は。瀨戸物屋井上。左角に藥種店井口あり。次は現存の上野御用達けさころもの仕立屋松屋。其の隣は下谷の名物たりし蛇の目鮓なり。又三橋の角今世界といふ牛肉屋の所には上野御用達菓子商金澤丹後の店あり。川柳點に「丹後からねぢれて見える袴」といへるは其の所見を述たるなり。此金澤の前に猫八といへる藝人出て。猫犬諸鳥の鳴聲を眞似。其の間には「テヅマ」をつかひなどせしが。文久の頃は此に代りて籠抜を巧みにする藝人出たり。共に當時の評判ものなりし。又井口の前には二人の讀賣。井上の前には石井大之進といへる居合抜出たりとぞ。

飛鳥川に云。抑下谷廣小路は四季とも菅凧の鳥むれて。左には蓬萊の酒樓、無極の切麥、右は翁屋の取着金澤の菓子店、臺嶺の花は小袖幕の昔を忍のばれ。金剛神の大像は池魚の災に迹なきを惜しむ。此山下の賑はひ中昔より是迄をおもふに。乞食舞童の松川鶴牛が歌舞妓のまなび。東藤六とうつり。鶴吉が手づまより文政のころは祭文のあやつり座。舌講の里谷が太閤記。

童の輕業かたはらの床店。古道具樣々の賣物に名鳥茶屋のおもてに。うしろ向きて鳥の名ども高やかに、いひたるなどありて一たび大江宇兵衛が細工の笑ひ布袋。其後の塔の涌出。皆是長き日に歩行をとゞむる處なりしを。天保に臺山の圍ひ地となりては。此處の寺までも葬地を引うつし。纔に往來のみ殘りて佛店の鰻、濱田の料理茶屋、竹澤の獨樂のみのこり。兩店は、こゝもとのみか淺草の軒並は一時に拂はれ。天澤山廣德寺前、池の端新土手のたぐひ迹もなし。こゝもとは歌祭文よみ三軒のよしずつゞき里谷再び太閤記を開くのゝみ。木戸を横ぎり車阪下とよべる町には。櫻香の油店、人形ぶし行來とだへぬ。此ほとりに文化度、盲目乞食の旦那〳〵と聲面白う、ふしをつけたるも昔なり。夏月葭簀張の水うりつる白玉の商人が水がらくり、をしならびたるは文化の末まで名物ともいへしが今は一二軒に過ず。

●舊御成街道

舊御成街道は上野より萬世橋に至る一帶の街路にして。德川家歷世の將軍。上野の祖廟に參詣せらるゝ際は必ず此路に由るの例なりしに因り此稱あり。御成とは當時將軍の城外に出でゝ某所に至るの敬語にて、もと某所に御出ならせらるゝといふより出たるものなり。

將軍御成の時は市中の提警嚴重にて、幕府の諸役人は各所を巡邏若くは警備し。前夜より煙を揚るを禁じ。各小路には竹矢來を結び。市民の往來を停止し。家々其の戸を鎖さしめ決して觀望するを許さず。其の沿道は總て靜肅を守らしむるを例とせり是れ一は將軍の威嚴を示し。一は暴行者を防ぐの手段なりし。

●上野西黑門町

◎位置及地勢

上野西黑門町は此邊に於ける大市街にして、東は舊御成路を隔てゝ上野東黑門町に對し。西北は本鄕區に界し。南は神田區に隣れり。道路四周し。又縱横に貫通す。地勢は平坦なり。土地の番號は一より二十三に至る。其の中六より十までを缺きたり

◎町名の起原並沿革

上野西黑門町は東黑門町の條にいへるが如し。明治二年新黑門町の內を分ちたるものにして。同五年伊勢國龜山藩石川氏の邸地並に幕府諸士の宅地を併合せるものなり。

◎景況

當町は神田五軒町に接し。一廓を成せる市街にして御成街道に臨めるを以て常に繁華なり。各營業者には一番地に大弓具加藤商店 城北合資會社。四番地に蓄音堂、釣具商津の國や、旅館廣集館。五番地に博物標本小川商店、洋品山口屋、金文商會。十一番地に雇人口入富士屋、加島酒店、中島藥局、十五番地に菓子舗岡野榮泉、しるこ大和屋。十七番地に打物日野屋等あり。又一番地に明星教會。四番地に辯護士中島松四郎事務所あり。十九番地には銀杏の老樹二株聳立して。其の下に小祠あり。同町五番地に閑居せる尺八の教授柏木拂雲(正太郎)氏は血染の尺八「烈の音」を秘藏す。其の由來は本月十二、十三兩日の諸新聞紙上に詳見す。

●下谷警察署

下谷警察署は上野西黑門町三番地に在り。下谷全區の警察事務を管理す。明治三十九年暴徒燒打を決行したる際火災に罹り。今尙ほ假屋にて執務し居れり。

明治五年當町に第五大區三、四小區及び七、十小區巡査屯所を設置せしを起原とし。後ち之を併合し。同八年に警視第五分廳第二署、警視第五方面第二署と爲し。同十年には警視第五方面第三分署。十四年には第五方面下谷區西黑門町警察署(此時阪本町警察署を置き尋て之を廢せり)第五方面下谷警察署となり以て今に至る。

●上野南大門町

◎位置及地勢

上野南大門町は當區西隅南畔に在りて。東は長者町一丁目に沿ひ。西南は神田區に界し。北は阪町に對せり。其の形は南北に狹長し。地勢平坦なり。土地の番號は一より十六に至る。

◎町名の起原並沿革

上野南大門町は。往古下谷村の內にして。一時幕府諸士の宅地なりしが。元祿十年寛永寺中堂建築の際廣小路東側に在りて。大門町と稱せし市街地を公用地に充て。其の代地として此處にて給與せられしもの。卽ち當町なり。大門町の南に移りしに因り。更に今の名稱に改めたり。

●上野北大門町

◎位置及地勢

上野北大門町は不忍池の南方に在り。東は大路を隔てゝ廣小路町に對し。西の一部は數寄屋町に連り。其の一部は本鄕區に界す。南は東西黑門町の前頭道路に臨み。北は元黑門町に接せり地勢平坦にて。土地の番號は一より十六に至る。其の中第八を缺きたり。

◎町名の起原並沿革

上野北大門町は寛永二年東叡山の門前地となり。大門の前通りに當れるを以て上野大門町と稱したり。元祿十年上野中堂建設の擧ありて。町內東側は公用地となり。長者町裏(南大門町)及び神田八軒町續きにて、代地を給與せらるゝに當り。此處の舊地には北の字を冠することゝなれり。

◎景況

當町は御成道に臨み上野淺草に交通すべき市街に當れるに因り各市店軒を列ねたり。一番地には商品博覽館の建築工事ありて賑はしく又東京貯藏銀行下谷支店等あり。三番地には貸席松橋七番地に菓子舗風月堂、鳥料理鳥武。八番地雇人口入伊勢屋。鰹節商加島屋。公證人廣瀨義視事務所。十二番地に金銀美術品野村商店。十六番地に待合保月等あり。

●上野元黑門町

◎位置及地勢

上野元黑門町は上野公園前の西側に在りて。東は廣濶なる大路を隔てゝ。上野三橋町に對し。西は不忍池畔に臨み。其の一部は池端仲町に連り。南は上野北大門町に接し。北は公園下にて斜に生池院を望めり。地勢は高からず。土地の番號は一より二十八に至る。

◎町名の起原並沿革

上野元黑門町は往古下谷村の內にして。寛永の初年上野寛永寺の領地となり市街を開設す。上野黑門の前頭に當れるに因り單に黑門町と稱したりしが。其の後新黑門町の建設に會し。元の字を冠することゝなれり。明治二年に至り。仁王門前西側及び上野屋敷の西邊を當町に併合せり。

◎景況

當町は上野公園の入口所謂袴腰の前に當り居るを以て。常に繁昌を極む。殊に各飲食店の後背は不忍池に對し。風景最も佳なり。

三橋橋畔より北へ順に算すれば。先づ揚出し御茶漬。瓦せんべい水菓子屋、待合岡田、大和屋、すきやき料理丸萬樓(松源樓跡)東京商品館、旅館都田屋、料理店靑陽樓、鳥又、松田樓あ

り。次にそばや藪いせ、てんぷらや野村、屋敷の兩店、しるこや氷月亭等あり。又池の端のかたには。待合かねこ、玉もと、さくらぎ、きの字あり。毬戯場みどり館、櫛や十三屋、生花松應齋、蒲燒伊豆榮、辨護士江間俊一事務所あり。表通りには鈴木時計店、そばや萬盛庵、下谷銀行（二十九年四月六日設立資本金十萬圓）等あり。

●上野廣小路町

◎位置及地勢

上野廣小路町は上野公園前三橋の東畔に在りて。其の前頭は方形を成し。其の下部は忽ち狹小となりて南に延びたり。即ち東方は上野町二丁目に連り。西方は上野元黑門町と同北大門町に對し。南は上野東黑門町に接し。北は忍川を隔てゝ上野三橋町に隣れり。地勢は平坦にて。區劃の番號は一より二十六に至る。

◎町名の起原並沿革

上野廣小路町は往古下谷村の内にして。延寶年間上野元黑門町及び上野北大門町の兩町に分屬し。明暦に至り。西邊の家屋一半を撤去して南北一條の道路に合し。之を廣小路と呼びたり。明治二年上野北大門町の内及び常樂院門前の地を併せて今の名稱を附せり。

◎景　況

當町は上野公園前大路の東側に當るを以て三橋町に亞ぎて四時共に繁華なり。十九番地に料理店忍川。二十番地に牛鳥肉西洋料理世界。十番地に旅館伊勢。十一番地に同山城屋、寄席鈴本亭。二十四番地に東京ビール平川。三十五番地に大江寫眞店。十三番地に長日銀行（資本金十五萬圓三十三年三月五日設立）。八番地に花延製造業根岸支店。六番地に多田醫院。二十四番地に松崎齒科醫院等あり。又町内には袈裟製作を業とせる松屋庄七ありて。三十六坊當時の名殘を留めたり。

●常樂院

常樂院は。上野廣小路町二十五番地に在り。寶玉山と號し。長福壽寺と稱す。天台宗にして上野寛永寺末なり。天平年間僧行基の作といひ傳ふる阿彌陀如來の木像を安置す。東京六阿彌陀中第五番なり。

阿彌陀堂は土藏作りにて。前に鐵製の水盤を置き。櫻の老樹一株あり。西畔に閻魔堂。南畔に六軀の石地藏を列す。多く、犬張子を掛く。世に播椒地藏といへるは是にや。一碑あり。木魚庵秋丸の俳句を刻す。

　閑呼鳥見て來た僧に逢にけり。

當寺に古き護摩釜を藏するよし。

●上野三橋町

◎位置及地勢

上野三橋町は上野公園前の東畔に在り。東は下谷町二丁目の一部と同一丁目に對し。西は上野元黑門町の一部と上野北大門町に向ひ。南は道路と忍川とを隔てゝ上野廣小路町に面し。北は五條町に連接せり。地勢は平坦にて土地の番號は一より十三に至る。

◎町名の起原并沿革

上野三橋町は往古下谷村の内にして。初は寛永寺門前地と稱したりしが。延寶の頃始て下谷一丁目と唱へたりき。元祿十年更に之を區分して上野仁王門前、上野北大門、上野黑門前の三町と爲し。同十一年火災ありしより其の西邊を火除地と爲したり。寶永七年拜領町屋敷となり。上野仁王門前町と稱せしが。明治二年に至り。東邊の土地を併せて今の町名を附したり

◎景　況

當町は電車停留場の前に當り。上野公園に遊ぶ者は皆此處にて下車するを以て。飲食休憩も亦此邊に於て擇ぶの例なれば。四時共に繁華なり。殊に春風駘蕩櫻花爛熳の候には。各店頭共に履屐山を成す。

一番地には牛鳥肉店今村、西洋料理三橋亭本店。二番地には料理仕出し駿河屋。並に蒲鉾屋あり。五番地には旅館三河屋。六番地に同埼玉屋あり。七番地には牛鳥肉店可滿屋。雁鍋跡には料理店世界本店天麩羅屋甲子分店等あり。

●三　橋

上野公園の前不忍池より流出せる忍川に架せる橋梁三つありて一路に相竝べり。故に稱して三橋といふ。三橋町の名稱も此より出たるなり。三橋は蓋し御橋の訛りならむといふ。昔時將軍の東叡山に參詣するや。必らず其の中央の橋を通過せらるゝを例とし。繩附の者即ち犯罪者は。其の東の小橋を經。葬禮の行列は其の西の小橋を經るを例とせりといふ。俗間或は之を三枚橋といふは誤りなり。三枚橋は其の東方徒町に在り。前編に詳記せり。

●龍　門　橋

龍門橋は不忍池より閘門を經て忍川に注げる處に架したる石橋なり。池水の吐口にて急湍を成せるより。鯉魚の龍門の瀑布に登るといふ趣向に取りなしてかくは名づけたるなるべし。

●上野山下町

◎位置及地勢

上野山下町は其の名の如く東叡山下に在りて。南北に延長し東は上下の車坂町に對し。西は總て公園に面し。南は仲徒町の一部と下谷町二丁目に臨み。北は豊住町と坂本町一丁目とに接せり。地勢は素より高からず。番號は僅かに五に過ぎず。而して其の全部は舊日本鐵道停車場の敷地に屬せり。

◎町名の起原并沿革

上野山下町は往昔下谷町に屬し居りしが元祿十一年火災に罹り公用地となり。貞享二年商店を開設せしが。享保の火災にて火除地となり。天保十四年寛永寺領となり。明治二年今の町名を加ふ。其の義は上野山下に當れるに因る。

●鐵道國有線上野停車場

鐵道國有線上野停車場の敷地は。上野山下町の全域に亘れり。東北各線路の發着點にして。貨車は更に南方なる秋葉原に達す。即ち舊日本鐵道株式會社の停車場にて。明治十四年の開設に係る。實に本邦私立鐵道の始なり。同三十九年に至り。政府之を買收して國有とせり。交通線は左の如し。

奥羽線	上野青森間
海岸線	上野、水戶、岩沼、仙臺間
中仙道線	上野、高崎、前橋間
信越線	上野、高崎、長野、直江津間
山手線	上野、赤羽、新橋間、上野、田端、新橋間

◯山下の舊況

單に山下と稱したる上野山下の火除地は。幕府時代に在りては一の遊觀地にして。最も繁昌を極めたり。武江圖說に「此處は茶店、楊弓場、淨瑠理芝居、舌講師、非人物眞似等見物遊山の場にて。常に賑はし」とあり又文政十一年新刊の小南慄齋が江戶竹枝詞に。左の數首あり。以て當時の景況一斑を窺ふべし。

　白日青天骨董肆。開時山下衆人屯。若非二具眼一辨二眞贋一。菽麥難レ分玉石渾。

青天對レ竈賣茶女。紅粉凝レ粧駐二客車一。茶美非レ關二春色美一。人論二春色一不レ論レ茶。
兵器太平爲二玩物一。纖々玉手執レ弓遊。楊弓今落美人手。猶引二郎衣一學二射候一。
口似二鮫鯨一吐二呑水一。腹如二泥土一出二潛鰍一。乞兒活計更無レ比。
觀者堵墻錢百投。
飛鳥川にも亦當時の景況を叙したり。

○山下火除地

府内備考に云。東叡山の側なれば山下と呼べり。元文二年火災の後山内火除の爲として明地になし定めらる。その詳なる事は明地預り下谷町一丁目二丁目車坂町より出せし書上にみへたり其全文下に載す。當町は兩國橋廣小路と同じく、種々の見世物やうのもの及土弓場等を設け。又一荷賣の商人常につどひて殊に賑へる地なり。

上野山下火除明地

一火除地起立の儀は元文二巳年中大火にて類燒の場所下谷二丁目之内町屋幷正法院其外七番組御徒行組屋敷等上野御火除御用地に被召上候廣場に有之延享五辰年四月十五日町御奉行能勢肥後守樣下谷一丁目同二丁目下谷車坂町月行事共被召出右三箇町へ被遊御預見守被仰付候然る處右場所へ近邊之もの一荷賣商日覆葭簀張致し差出し申度旨奉願御聞濟被成下尤十箇年宛に年季にて御願濟に有之候
一右同年同月十九日此度朝鮮人來朝に付火除地前通り往還凡百間餘之所道通り幷明地内四方折回し三百間餘の竹矢來仕候樣被仰付三箇町申合町入用を以右御用相勤明和元申年の節も右同樣御用被仰付候
一安永五申年四月日光御社參之節小荷駄馬立場御用被仰付相勤申候
一文化三寅年三月大火の節類燒之旨御救小屋相立候節三箇町家主共罷出右御用相勤申候
一四隣　東牧定五郎樣屋敷西東叡山南下谷町一丁目御徒組屋敷北東叡山
一火除明地東西え百間餘之處當時六十五間餘南北え二十間有之但啓運寺前通明地一番同寺東後。二番其次三番和泉橋通り西角四番同東角五番と唱來候處五番之明地東西三十八間程南北十七間程此坪七百三十一坪餘之所三百坪宛寛政六寅年二月十九日武家方拜領地に相成當時御本丸御納戸御番野田源太夫樣小普請支配太田内藏頭樣組平澤善助樣御屋敷に有之百三十一坪餘は寛政十二申年七月晦日是又拜領地に相成當時西丸表御火之番牧定五郎樣御屋敷に有之當時五番と唱申候明地不殘武家方屋敷に相成申候
一明地内異變之儀は御預り三箇町掛り致取計來申候

○下寺

明治以前下寺と稱せしは。今の山下町卽ち舊日本鐵道停車場の敷地内にて上野三十六坊中の十一寺南北に連接してありし所なり。寺院は左の如し。

山下門の北

普門院　松平阿波守建立○宿旦は松平阿波守、小笠原壹岐守内藤紀伊守なり
常照院　加賀中納言利常建立○宿旦は加賀殿、祈願旦は眞田伊豆守、奇旦は松平出雲守、松平備後守なり。
顯性院　尾張大納言義直建立○宿旦は尾張殿、松平但馬守幷に喜連川家なり。

車阪門の北

明静院　越前宰相忠昌建立○宿旦は越前家宿坊料百石十人扶持なり。
修禪院　天海僧正建立○宿旦は松平大和守、奇旦は松平佐兵衛督、岩田大和守、九鬼大隅守、織田兵部、松平河内守、松平玄蕃頭なり。
一乘院　鍋島信濃守勝茂建立○宿旦は松平信濃守、鍋島加賀守、同攝津守、同備前守、伊藤修理亮、水野日向守なり。
吉祥院　中山備前守建立○兼水戸殿別當○宿旦は水戸殿、松平讃岐守、同大學頭、同播磨守、同靱負佐なり。

屏風坂門の北

寶勝院　慈眼大師從弟權大僧都豪仙建立○宿旦は松平陸奥守伊達伊織、伊達若狹守、田村隱岐守なり。
泉龍院　權大僧都慶倫建立○宿旦は松平紀伊守、次旦は内藤備後守、板倉美濃守、鳥居伊賀守、奇旦は森川兵部少輔、建部丹波守、大村河内守、内藤播磨守、松平源之助、五島大和守、山崎兵庫、市橋下總守、板倉佐渡守なり。
現龍院　稻葉佐渡守越智正成現龍院道範建立○宿旦は松平土佐守、宿坊料金五十兩、公義御祈禱料銀二十枚、香華旦は稻葉丹後守、堀田相摸守、堀田出雲守、阿部伊豫守、内田出羽守、三牧土佐守、奥山政之助なり
權大僧都行榮建立○宿旦は南部大膳太夫、奇旦は岡部美濃守、南部甲斐守、安部攝津守、織田織部なり。

●上野櫻木町

◎位置及地勢

上野櫻木町は二ヶ所に分在す。其の一は東叡山の北麓根岸の南畔に在り。其の一は上野公園の西畔に在り。北麓の方より記さむに。東は坂本町一、二丁目幷に同三丁目の一部に連り。西北は上根岸町に接し。南は山麓なる舊日本鐵道線路に沿ふて東西に延びたり。又山内の分は。東は公園なる美術學校、音樂學校等の側面に對し。西は谷中墓地と天王寺に連り。南は谷中清水町と谷中町に臨み。北は舊日本鐵道線路を俯瞰す。地勢はいふまでもなく。山内の方は高隆にて。北麓の方は卑低なり。土地の番號は一より五十五に至る。

◎町名の起原

上野櫻木町はもと東叡山寛永寺の領域なり。明治四五年の頃分割して一町と爲し。今の名稱を附したり。櫻木の稱は公園に櫻樹多きを以てなり。

◎景況

當町内根岸に沿ひたる部分は。時々火輪車の輾る音高く聞ゆるも。尙ほ風雅の地なるを失はず。一番地に高松凌雲氏の鶯溪醫院あり。二番地には有名なる料理店伊香保（清水榮太郎、電話二五〇八、前編に廣告あり）旅館鹽原温泉（電話二二六九）あり山内の部分は總て幽靜にして。寛永寺以下寺院多し。此等寺院の事は嘗て上野公園の部に記載し置きたれば。こゝには之を略す。其の他別項記する所の如し。

●御隱殿阪

御隱殿坂は谷中墓地に沿ひ鐵道線路を經て御隱殿跡に下る坂路をいふ。もと上野より御隱殿への通路なりしを以てなり。

●芋阪

芋阪は谷中墓地と安立院の前を經て妙揚寺の前に下る坂路をいふ。其の名の起る所を詳かにせず。

●鶯谷

鶯谷とは櫻木町卽ち上野新坂下の舊名にして。文政の地圖に德川靈屋下の處に「ウグヒスタニ」とあるは是なり。相傳ふ元祿年間上野の宮京都より鶯を取り寄せられ。此地に放たれしに因り此名ありと。もと靈屋下の火除地にて。一面樹木と篁等生茂り。池には大蛇住めりなどいひ居りしとぞ。明治維新後大猷公の廟址を貫きて坂路を開設し。此地は悉く人家となりて。今は其の名のみを存せり。

○櫻川

櫻川とは上野山際の清水同町二番地の前通り。卽ち德川長屋前を流れて大渠を成し。入谷邊の用水となるものなりしが。鐵道の開設以來廢止せり

●東京藥學校

東京藥學校は。上野櫻木町三十一番地に在り。藥劑師を養成する所にして。此に必要なる學科を敎授す。現校長は藥學博士下山順一郎氏なり。

明治二十一年元東京藥學校及び藥學講習所を併合して私立藥學校と稱し。之を神田區岩本町に建設せしが。同二十二年下谷區西町に移り。同三十年現地に轉じて今の名稱に改めたり。三十九年十二月現在の生徒は四百八十名にて。卒業生は九百四十六名なりと。學科並に授業料等は左の如し。

正科　二年半　授業料　一ヶ年二十七圓五十錢
專修科　不定　同　一ヶ月三圓
入學受驗料　二學期以上又は專修科は二圓
入學料　二圓
別に實地製煉用の原質及び藥品器具等の實費を要す

●丸茂病院

丸茂病院は同町三十三番地に在り。內外科、皮膚病及び傳染病を治療す、明治二十六年故丸茂文良の創設せしものにして。普通病室二十七、傳染病室十一を有す。

入院料一日上等二圓五十錢。二等一圓五十錢。三等一圓とし。外に手術料を要す。

外來患者の診察時間は午前九時より正午までとす。

●上野花園町

◎位置及地勢

上野花園町は上野公園の西側に在りて。東は上野公園に對し。西は本郷區に界し。南は不忍池に接し。北は谷中清水町に隣れり。地勢は平低にて。土地の番號は一より十八に至る

◎町名の起原並沿革

上野花園町は昔時上野御花畑と唱ふる地にして。上野家來屋敷谷中村飛地、善光寺上地、等なりしが。明治の初年之を併合して新に今の町名を附したり。花園の稱は花畑といふに據れるなり。案するに花畑といへるは。上野廟所等の靈前に供するが爲めに此處にて草花を培養せしものならむか。江戸砂子に不忍池の北當時やしきあり。俗御花畠といふとあり。又上の畑と標記して。右御花畠の北並谷中への道なり。これも御花畠にてありし。すてしの道を隔てゝ上下の御花畠といひしにや」と見ゆ

●谷中清水町

◎位置及地勢

谷中清水町は東叡山の西麓に在りて。東は上野公園に沿ひ西は本郷區に界し。南は上野花園町と公園の一部に接し。北は谷中坂町に連れり。地勢固より低し土地の番號一より廿一に至る。

◎町名の起原並沿革

谷中清水町は舊豐橋藩大河內氏の邸地跡なりしが。明治三年市街地となし上野清水門に對するを以て町名を附したり。一說に

谷中天王寺之壺（明治四十一年頃）

は町内清泉あるに因るといへり。

◎景況

當町は上野動物園の背面に當り稍々靜閑の地なり。一番地に子爵大河内信好氏（舊三河國豐橋藩主七萬九千九百石）の邸あり。三番地に東京痔瘻院。十一番地に淺香氏、松本（孫左衛門）氏の宅ありて池沼を有せり。

●櫻下稲荷神社

櫻下稲荷神社は同町十二番地の小丘上に在り。石の鳥居に扁額を掛く。石階を上れば一社一堂南面して相並ぶ。西なるは本社にて土瓮作りなり。東なるは不動尊にて木造の堂宇なり。幟竿の石に享保十一年四月吉日と刻しあり。又椎の老樹並銀杏樹あり。

●谷中坂町

◎位置及地勢

谷中坂町東は谷中町の一部並に三崎南町に面し。西は本郷區に界し。南は谷中清水町に連り。北は谷中三崎町の一部と眞島町に接せり。地勢は東方坂路を成して高く。西方は藍染川に臨みて低し。土地の番號は一より九十六に至る。

◎町名の起原並沿革

谷中坂町はもと下谷村の内なりしが寛永に至り寛永寺を創建するに當り下寺町通りに車阪門を設け廣路を開く因て其の處に在りしものに代地として此地を給與し。因て下谷車坂町と稱す。明治三年上野屋敷を本町に合し更に車坂町と改稱せしが。同五年上野南大門町の内及下谷町一丁目の代地を併せて今の町名を附したるものなり。

●善光寺阪

善光寺坂は谷中坂町の西畔二十八番地と二十九番地の間より玉林寺の前を經て北に上る坂路をいふ。方今青山に在る善光寺昔時は此邊に在りしを以て其の名を存せるなり一名信濃坂といふ。

●諸寺院

○天眼寺は谷中坂町二十五番地に在り。楞伽山と號す。臨濟宗にして京都妙心寺末なり。

延寶六年の創立にて開基は松平下總守忠敬。開山は越叟和尚（甫格）なり。

○本壽寺は同町三十八番地に在り。榮源山と號す。法華宗にして京都本國寺末なり。

慶長十九年の創立にて日榮上人之が開基たり。初め神田寺町に在りしが。慶安三年現地に移轉す。

日法上人製作の日蓮の像あり。

○瑞松院は同町四十番地に在り。祝融山と號す。臨濟宗にして京都妙心寺末なり。昔時は湯島大根畑に在りしが寛文四年此地に移轉す。開山は祖清和尚なり。

○臨江寺は同四十一番地に在り。龍興山と號す。臨濟宗にして京都紫大德寺の末なり。初め寛永七年池之端に創立して臨江庵と稱せしが延寶九年現地に移りて今の名に改む。開山は圭山和尚なり。

墓地には贈正四位蒲生君平及び古筆了仲の墓あり。

今左に蒲生君平の墓銘を掲げて其の忠誠を表すべし。

蒲生秀實墓表　　藤田一正

昔者中郎氏、學二周孔之道一、養二素丘園一、高二尚其事一、一出而翊二中宗中興之運一、再造二邦家經綸鴻業一、大織冠之勳塞二天地一、是以藤姓之胤、世秉二國鈞一、實與二社稷一同二休戚一、而枝葉蔓延、殆遍二乎海内一、其甍也學士紹明、欲レ傳二令名於不朽一、製二碑文一以示二後世一云、距レ今

千有餘歳、其文雖レ不レ可二得而見一、然大人君子、墓碑有レ文、蓋此爲レ始、淡海文忠公、在二大寶養老之際一、奉レ詔刊二修律令一、其喪葬令曰、凡三位以上、及別祖氏宗、竝得レ營レ墓、凡墓皆建レ碑、記二其官姓名之墓一、當二此之時一、朝野尚レ文、亡レ論二其名公鉅卿一、廼至二遐陬僻壤國造郡領之墓一、亦有二立レ石銘レ文者一矣、其後浮屠盛行、而葬祭之禮先廢、文章與二時運一、汚隆、而紀二述德業一、莫レ或二之聳一、慶元已來、偃レ武修レ文、操觚之士稍衆、碑碣之撰不尠、亡レ論二其閥閲之家一、廼至二文人儒士山林隱逸之流一、苟有下稍足二稱述一者上、亦皆有二以立レ石銘レ文者一矣、嗚呼君臧關東布衣、發レ憤著レ書、欲レ明二我神聖之道於中國一、徵レ之以二西土周孔之敎一、終身戀軻、齎レ志以沒、曾無二一資半給之潤一、其身一而尺寸之功、不レ克レ施二諸當世一、然其浩然之氣、託二諸文章一、卓卓其不レ朽者、可下以與二古人一爲上徒矣、其墓之有レ表、豈得レ已哉、君臧諱秀實、一名夷吾、字君平、下野人也、本福田氏之子、自改二氏蒲生一、蒲生淡海望族也、系出二藤原朝臣秀郷一、至二會津參議氏郷一而大顯、先生屢遷二徙野奥之間一、其宗爲二有土之君一者、亡レ嗣絶レ祀、既百數年矣、君臧廼其庶孽苗裔云、東野之俗素强悍、君臧少以氣自豪、讀レ書不レ治二章句一、慨然有二經濟之志一、及二壯好レ遊、足跡殆遍天下之半、然未二嘗登二仕路一、故雖二身在二都會一乎、常有二山林樸茂之氣一、其平生所二持論一、未二嘗少自貶以求レ售、故圓枘方鑿、俗儒笑以爲二極迂極濶一、而君臧自信愈篤、恒謂二其友一曰、吾以編戶餘夫一、不レ能レ治二生商賈一、又不二肯仕官爲一吏、以于升斗祿一、讀レ書作二爲文章一、亦不レ能下與二曲學阿世之徒一爲上伍、朝壅暮鹽、坐取二困窮一、子亦知二其所一以然一乎、吾少時嘗在レ家讀レ書、先祖母自レ旁語レ我曰、昔蒲生氏之自二會津一徙二封宇都宮一也、其庶孽有二帶刀某者一、食祿三千石、納二邑豪福田氏女一爲レ妾、有レ身、適會二蒲生氏再封二會津一、帶刀亦隨而徙焉、時留二其妾父家一、既而生レ男、妾父母愛レ之、不レ忍二其遠別一、佯告以二女子一、因鞠二于其家一、後冐二母性一、遂爲二編戶之民一、是於レ汝高祖之父也、汝讀レ書者善記レ之、吾於レ是參レ憤立レ志、講二究古學一、欲下脩二曠世之墜典一以報中國恩之萬一上、庶幾乎其不レ忝二先祖一矣、吾生也晚、不レ逢二大化大寶之世一、大織淡海二公之相業、非レ所二企及一、雖レ然在二其位一、行二其道一、不レ在二其位一者、行二其言一、稽レ古徵レ今、通二達國體一、王政之要、在レ納二民於軌物一、俾下在レ上之人明二祀典一、以敎二孝敬一、四海之內、各以二其職一助レ祭、則天祖之所二以照一臨六合一者、萬世無レ墜矣、富二諸侯一、以奮二武衞一、安二百姓一、以固二邦本一、是吾願也、昇平二百年、不レ値二天慶天正之亂一、秀郷氏郷兩朝臣之將略、無二復所レ施、雖レ然安不レ忘レ危、古之善敎、天下雖レ安、所レ可レ虞者、夷狄盜賊、正二名分一、以定二民志一、禁二左道一、以塞二亂源一、使二吾說獲レ行、則遠二宴安之酖毒一、驅二我狄之豺狼一、不二啻致二一時摧陷廓清之功一、俾二斯民永無二被髮左衽之患一矣、斯吾志也、志願如レ此、悠悠之徒、曷足二共談一哉、君臧又曰、仲尼稱吾志在二春秋一、春秋經世之志道二名分一、周公之遺法存焉、故爲レ政正レ名、夫子所レ先、戎狄是膺、周公之訓、今世俗儒、以レ文亂レ名、俗吏因レ權亂レ法、亂法者罪止二其身一、亂名者其言載二簡冊一、而流二毒於後世一、夫神州天地之正氣也、陰陽所レ和、寔爲二中國一、中和見二乎穀一、而甘美豐饒、文敎所レ及、其養以給、精英發二乎鐵一、而堅剛銳利、武威所レ加、其功以成、限以二天地一、莫レ有二外寇之患一、開闢以來、天祖之胤、世世傳レ統、君臣上下之分、嚴乎無レ紊、宇宙之間、孰能及二我神州一者、故日出處天子、日沒處天子、雖レ交二大國一、不二肯苟讓一、惜二夫名一也、今俗儒不レ知二名分一、動虧二國體一、苟眩二乎小大之勢一、而不レ顧二其名一、則愛新覺羅氏之正朔、亦可二稟而奉一之、鄂羅斯國之察罕汗、亦可二稱爲一女帝一也、可乎哉、丁卯歳、北虜擾レ邊、君臧時在二江戶一、聞レ之憂憤、廼著二不恤緯五篇一、詣二國老門下一、上書獻レ之、不レ報、先レ是君臧嘗聞二古先帝王之山陵或有二荒廢者一、欲下告二之當路一、以圖中脩記一、躬自歷二視其地一、參二考古圖舊記一、作二山陵志一、

平生精力、半在二此書一、書成、獻二之京師及關東諸公用一、事者一、有司嫌二其論建非一、處士所レ宜レ名詰レ之、君臧乃引二律文一、誦二故事一、以對、於レ是君臧慷慨自奮、欲下爲二天下一、言中世人之所レ難レ言者上、雖二由レ是獲レ禍、而不レ顧也、時人目二君臧一、以二狂妄一、殆將レ懼二不測之罪一、蓋或有下知二君臧之爲レ人者上、憫而救レ之、因獲レ免、君臧素剛腸、不レ能下俯二仰當世一、以取レ容、廼澆以レ酒、時或劇飲大醉、頹然自放、而憂國之念、未二嘗頃刻忘一也、閒居講レ學、以二懲レ忿窒レ欲不二敢與レ世抗一、爲レ務、廼號二其所レ居之菴一、曰二脩靜一、以自警、謂修レ身在レ此、而成レ名亦在レ此、敎授之暇、專二力著述一、始君臧著二革弊賦役等諸論一、號曰二今書一、以規二當世得失一、至レ是更撰二職官志一、欲下以レ次編二神祇姓族等志一、併與二山稜一爲中九志上、未レ及二悉成一、以レ疾沒二于江戶僑居一、時文化十年癸酉七月五日也、享年四十有六、君臧壯而丁二家艱一、服除、遊二歷四方一、故晚而娶、其配多氏、紅葉山伶官某之女、無二子一、君臧之沒也、其交游尤親且舊者、相聚而哭レ之曰、斯人也作二山陵志一者、其於二喪祭之禮一、最致レ意焉、不幸無レ嗣、襄事之責在二明友一、其可レ不レ盡レ心乎、廼葬二之江戶北郊谷中龍興山臨江寺域內一、既而以下余與二君臧一久相識上也、託以二表墓之文一、廼書以遺レ之、使二之鑱二諸石一、曰、

嗚呼君臧、每以二關東布衣一、自稱、雖レ不レ免二阨窮一、猶爲二天下奇男子一、豈可下與二彼閭里儒梟號稱一先生一同年而語上哉、吾聞其臨レ終尙稱二天地之正氣一、且有二三寶之說一云、留二精靈於天地之間一、將下俟二其人一而授上之、古之所レ謂死而不レ亡者、其君臧之謂邪、噫徵二斯人一、吾誰與歸、

文政元年歳在二戊寅一、秋八月

○玉林寺は同五十四番地に在り。望湖山と號す。曹洞宗にして駒込吉祥寺末なり。

天正十九年の創立にて開山は用山元照（一に照山養大に作る）和尙なり。舊寺領は二十一石八斗ありしよし。境內に河津三郎祐康の墓あり。何人の建る所たるを詳かにせず。又儒字中村蘭林。歌人井上文雄の墓あり。

○妙情寺は同町六十八番地に在り。究竟山と號す。日蓮宗にして京都立本寺末なり。開山は日泰上人とす。

○本光寺は同町七十二番地にあり。長源山と號す。法華宗にして總州本土寺末なり。開山は守善院日源上人とす。

當寺境內に俗に人頭さまといふ佛神あり。是は頭より以上の病平癒を祈るに効驗ありとて。數年前までは大に繁昌せしが。近來は附近の七裏や日荷に押されて寂れたり。

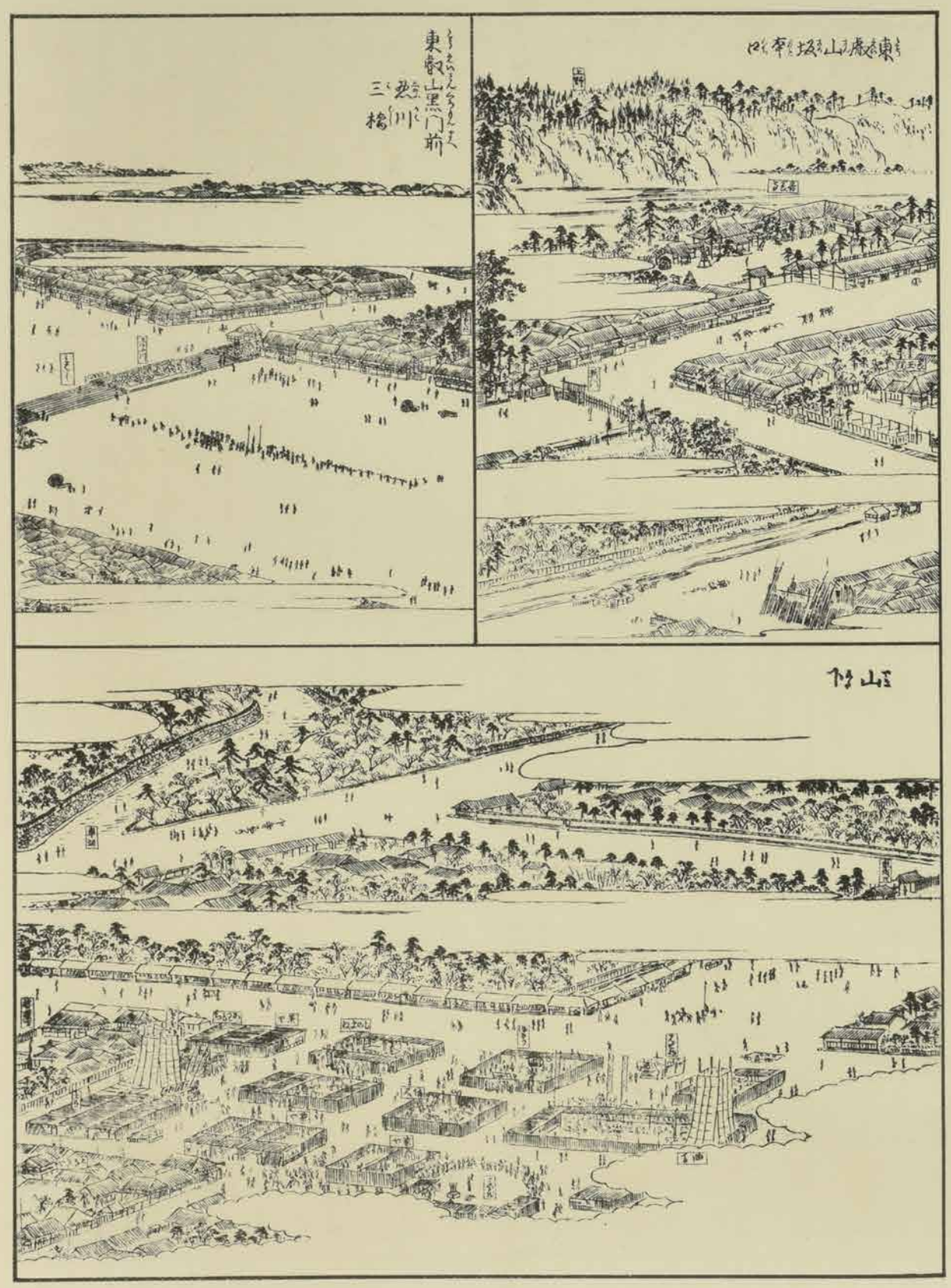
○一乘寺は同町七十四番地に在り。大法山と號す。日蓮宗にして上總國茂原村妙光寺末。開山は日實上人なり。日蓮上人眞筆の本尊を安置し。日親、日遠兩上人の眞筆を藏す。昔時寺中に眞淨坊あり。

當寺には太田錦城の墓あり。左に其の墓表を揭ぐ。

錦城先生太田才佐墓表

藤田一正

文政八年歳在二乙酉一、四月二十三日、錦城先生以レ病終二于江戶一、享年六十有一、葬二北郊谷中里一、乘院域內一、送レ葬者蓋千餘人云、其友藤田一正在二水戶一、聞而哭レ之、謂レ人曰、斯人也天下奇材、一代名儒、天下之寶、固當下爲二天下一惜上之、斯人而亡、其亦可レ悲也夫、先生太田氏、諱元貞、字公幹、錦城其別號、而才佐其平時所二自稱一也、七世祖柴山監物、事二豐太閤一、食二祿萬石一、監物之孫曰宥菴、仕於二京師一、有二二子一、皆以レ醫仕二加賀一、加賀北藩大國也、菅公之胤、世爲二之君一、宗國治二金澤一、而支封邑二于大聖寺一、宥菴二子、各自別レ族、長爲二能勢氏一、事二金澤一、次爲二太田氏一、事二大聖寺城主一、子孫因家焉、父曰二玄覺一、讀書强記、精二於陰陽本草之說一、好二施與一、行二陰德一、娶二樫田氏女一、生二八子一、先生其季也、生二於大聖寺之福田里一、



生而穎異、五歲始識字、曉二士士二義一、十一作詩、十三講二說經史一、鄉里號爲二神童一、先生蚤從二其兄伯恒一、切二劘家學一、頗有所成立、然不甘爲二方技之士一、以鮑繫北土、遂有二四方之志一、西詣二京師一、東遊二江都一、覔二當世宿學老儒一、以嚴二事之一、所謂洪園先生北山先生者、共以文名、稱二雄東西一、而請益質疑、皆不滿二其意一、於是慨然欲求二之古人一、勵精刻苦、學大進、先生素懷奇負氣、不安屈二於人一、大醫桂山多紀氏、博學洽聞、名震二關東一、而愛容下士、一時知名之士、多從之遊、而特服二先生才學一、俾二其子弟受業一、每語人曰、才佐眞才士、今世縫腋第一、由是知名、我水戸文公、亦聞二其奇材一、將欲辟之、適會有二沮之者一、而不果、先生下帷教授、不求聞達於諸侯、窮居陋巷、若將終身焉、故閣老吉田源侯、重幣招之、爲二其家嗣今豆州吉田侯一、講二說經書一、優待甚厚、己卯吉田侯就封、先生從焉、庚辰乞暇、再遊二京師一、搢紳學士、聽二其論說一、莫不驚服、是時加賀金龍公、惜二先生北藩之產一、而爲二意外賓師一、屢遣二使于吉田邸一、請二先生一、吉田侯不可、廼倍其食俸、禮遇愈渥、然加賀侯之請益切、不能固拒、以命二先生一、先生亦以其父母之邦、起而應二其聘一、加賀侯授二祿三百石一、班二上士一、不煩以職事、居亡幾、金龍公卽世、先生亦尋沒、人皆曰、擇木之智、首丘之仁、先生兼之矣、配武田氏、生二六男一女一、曰德厚、曰雄飛、曰敦、曰如晦、曰玄齡、曰天瑞、德厚稱二英太郎一、嗣仕二加賀一、食祿二百石一、以善二擊劍一稱、其餘皆攻二文學一、雄飛先歿、敦食二粟於吉田一、女嫁二于古筆氏一、初先生始來二江都一、年甫弱冠、落魂無資、爨桂炊玉、且遭二歉歲一、拮据大窘、漂二游於二毛之野一、險阻艱難、莫不二備嘗一、而其執志愈堅、不限二穫於貧賤一、再至二江戸一、竟成二大儒一、先生博學、百氏之書、無所不讀、而尤長二於經術一、詩書易春秋、沈潛反覆、參互錯綜、攷證之妙、多發二先賢所未發一、而於二四子之書一、所二以相爲終始一者、最深致二思焉一、上自二先秦古文一、下至三後世雜書一、苟有關二經義一、莫不旁引曲暢、審二其同異一、辨其是非、其漢唐宋明、及近時淸人、與二我國朝諸儒之說一、會萃演繹、必歸二諸至當一、而止、至如老釋之言占相之書一、亦皆粗究二其歸趣一、凡宇宙三千年、治亂成敗、歷々如指二諸掌一、而其於本朝一、特熟二於應仁天正以來傳記一、英雄割據之迹、其土疆廣狹大小、兵賦多少强弱、及將士姓名譜牒、皆能娓娓言之、其於二當世郡國利病一、亦窮究二其故一、而獨好談二邊塞事一、時政得失、不敢妄議一、獨曰、治亂之原、在二人主奢與儉而已一、其論二講武練兵一、則曰威敵利器、固在二弓銃一、而養二士卒之勇一、莫如二刀槍一、城府之間、或專恃二長兵一、而不知用短者、其俗必弱矣、識者以爲二知言一、若二其詩文一、才多之餘、初務鋪叙、喜二刻琢一、既更簡易平淡、而其奇氣可愛者、始終如一、要不踏襲前人一、卓然自成二一家一云、先生既沒、其門人謀二所以表二其墓一者、僉謂、當世非無二能文之士一、而其與二先生一相識最舊者、莫如余、嗚呼先生、余不二相見一久矣、其容貌淸癯、胸襟瀟灑者、猶能髣髴其平生一、而雄辯懸河、飛談捲霧者、今不二復得一聽矣、經傳之理、其誰與解二釋其疑難一也、古今之事、其誰與上二下其議論一也、嗚呼先生之爲人、疎暢洞達、不事二矯飾一、名之所在、謗亦隨焉、古人不云乎、能言而不能行者、國之寶也、能行而不能言者、國之用也、世之君子、汲二汲富貴一、徒弋二身家之腴一、而無益二於國一者不勘、而或譏二先生之空言無施一、而不知二其能言之爲寶者、獨何哉、故余今表二其墓一、以告二天下後世之人一、

○妙傳寺は同町五十九番地に在り。星梅山と號す。法華宗にして相摸國妙傳寺末なり。舊門前町屋あり

○金輪寺は同町六十二番地に在り。鶴泉山と號す。寶松院と稱す。慈覺大師製作の朝日藥師を安置す。

寺傳に云。紀立の年月は度々の燒失にて之を失ふ。開山は密法行者にして金輪ノ。大法を修煉し。甚た奇特を得しより上

聞に達し日光御門主より金輪寺の號を賜りしよし。德川家康公の忌日に納經をつとむといふ。かゝれば當寺は寛永年中の創立か。初は本鄕に在りしが元文年中現地に移轉せりと。

○信行寺は同町六十五番地に在り。妙經山と號す。日蓮宗にして駿河國實相寺の末なり。

○上聖寺は同町七十番地に在り。佛壽山と號す。法華宗にして上總國玉澤の末なり。開山は日通上人。

○妙福寺は同町八十七番地に在り。石岡山と號す。法華宗にして京都本法寺の末なり。開山は日親上人。世に鍋冠といふ。

○妙泉寺は同町八十番地に在り。長久山と號す。法華宗にして尼崎本興寺京都本國寺の兩末なり。

○佛心寺は同町八十二番地に在り。顯壽山と號す。法華宗にして堺妙國寺の末なり。閉山は顯壽院日演上人。

傳教大師作毘砂門天を安置す。

○長運寺は同町九十番地に在り。大乘山と號す。日蓮宗にして身延山の末なり。萬治二年の創立にて開山は本兩院日見上人とす。江戸砂子に云大磯の虎か石。故ありて當寺にあり長三尺横一尺二三寸ばかり。新編江戸志に云。予此寺へ尋行てもとむるに今はなし。何れの頃にか又大磯へ返しけるとなり。

○領玄寺は谷中阪町九十五番地に在り。日長山と號す。日蓮宗にして甲斐國久遠寺の末なり。椎の大樹あり。世に椎の木寺といふ。創立詳ならず。慶安四年領玄院日長上人之を中興す。もと享師櫻と稱する櫻あり。日享上人の手植する所。十月會式の頃に花を開くを以て俗に會式櫻といふ。江戸名所圖會に其の圖を載す。今尚ほ蘖を存じ依然開花す。

南向茶話云身延三十三世日享上人當寺に退隱す。上人植る所の櫻樹寶曆三丁酉年十一月二十二日上人三十三回忌の刻。花咲く。今に例年冬花咲なり。

○宗善寺は同町九十四番地に在り。

●谷中眞島町

◎位置及地勢

谷中眞島町は當區西北隅に在りて。東は谷中阪町及び三崎町の一部に連り。西は三崎町の一部に接し本鄕區に界せり。南は谷中阪町に對し。北は三崎町に凸入す。地勢は東方は高く。西方は臭濕なり。土地の番は七に過ぎず。

◎町名の起原並沿革

谷中眞島町は昔時眞島藩三浦氏の邸ありしを以て名く。明治五年同邸及び近傍の土地を合一して此町名を附せり。

●三浦阪

三浦阪は眞島町の東方西畔より領玄寺前に上る阪路をいふ。もと三浦志摩守の邸ありしに因る一名中阪といふ。

●谷中三崎町

◎位置及地勢

谷中三崎町は當區の西北隅に在りて其の地形整一ならず。東は三崎北町並に初音町一丁目に連り。西は本鄕區に隣り。南は三崎南町と眞島町に密接し。北は初音町三丁目同四丁目に界す。地勢は凹窪にして谷戸川其の境線を流過す。土地の番號は一より七十一に至る。

◎町名の起原幷沿革

谷中三崎町はもと谷中村の内より分割して市街地と爲したるものにして。駒込、田畑、谷中の丘岡鼎峙せる處なるより名くとの說なり。他所にては三崎と書し。ミサキと讀むが通例なるにこゝにてはサンサキといふ。故に此說ありと覺ゆ。然れども、もとやはりミサキにてはあらざるか。近傍日暮里に舟繫松などあ

り。往古は不忍池に連れる大流水の岬なるより名けしならむと思はるゝなり。明治四年南側北側の二町に分ちしが。六年之を合一し同二十四年三月に至り谷中初音町三丁目の内及び谷中村の内(字下三崎飛地を除く)を加へたり。

●三崎阪

三崎阪は初音町一丁目の方より千駄木の方へ下る阪路をいふ。俗に首ふり阪といふ。

●諸寺院

○福相寺は谷中三崎町一番地に在り。松榮山と號す。日蓮宗にして小湊誕生寺の末なり。
開山は自應院日信上人とす。往古は一向宗なりしよし。
○長久寺は同町五番地に在り。延壽山と號す。日蓮宗にして身延山久遠寺末。昔時門前町屋あり。
○立善寺は同町十一番地に在り。長興山と號す。日蓮宗にして下野國佐野妙顯寺末なり。開山は日榮上人とす。元和三年兩國矢倉に創立し。元和八年下谷金杉に移り。明暦二年他に轉じ。貞享元年更に現地に移る。鬼形鬼子母神を安置す。
○大圓寺は同町三十番地に在り。高光山と號す。日蓮宗にして本所法恩寺末なり。開基は日授上人とす。元加賀原に在りしが後上野清水門脇に轉じ。更に現地に移れり。
傳教大師作の大黒天を安置す。

●瘡守藥王菩薩

瘡守藥王菩薩は大圓寺に在り。是れ笠森稲荷の事なり。今は寺に祀れる爲めにや。稲荷の體裁絶てなく。全く佛堂となりたり堂前に寶珠形の大香爐を置き。香火を供し。鍔口を掛け。左右に多く奉納の小額を陳展し。又小形土偶の狐を置く。列植せる幟には瘡守稲荷と書したるあり。或は舊に仍り笠森稲荷大明神など記したるものあるはおかし。
俗間にては昔時より笠森は瘡守なりとて。瘡の病に効驗ありと信じ。初は土製の團子を納めて之を祈り。平癒せし時は米の團子を納るの習慣なり。門内に其の團子を鬻き居れり。明和の頃おせんといへる女團子店を營業せしに美婦の聲名高く揚り。參詣する者爲に群を爲せり。
明和七年庚寅夏五月出版の娯息齋詩集に。詠笠森美女と題せる七絶に。參詣群集笠森邊、始見正眞辨財天、老若拜飲一杯茗、於花團子是於千、とあり。又七言古東都曲に。鍵屋於千處々響柳屋於藤日々榮と見ゆ。此にて團子店も鍵屋と稱したることを徵すべし。於藤は金龍山楊枝店の美人なり。今に至るまで東京の手鞠歌に左の如く傳へ居るは全く此於千の評判高きに因れるなり。

向ふ横丁のお稲荷さんへ一錢あげてザットお拜んでお千の茶屋へ腰をかけたら澁茶を出して澁茶よこ〳〵横目でみたらば土の團子か米の團子かお團子―この團子を犬にやらふか猫にやらふかトウ〳〵鳶にさらはれタ。

曳尾庵之記に云。笠森稲荷境内に水茶屋の娘を笠森おせんとて大に評判高し。又其少し後淺草觀音堂のうしろ揚枝みせに。いてう娘といふもの美婦也。又山下水茶屋の娘をとんだ茶釜といふらす。深川八幡にて鐵倉八幡本地佛開帳の節。神子の女をおすてとて殊の外評判一枚畫にいたし。所々の娘をミセ〳〵に飾りおきはやる。しかし笠森おせんを一番とす。おせん後に御家人倉地氏の妻となる。此倉地甚左衛門文化の比は御賄の組頭など勤しが。文化七八の頃病死す。今倉地一郎の母はおせんなり。

江戸砂子に笠森稲荷社　三崎町諸人瘡の病をいのるに、しるしありとて。土にてつくりし團子をおさむ。境内門前に茶屋ありて團子を賣る。白山にある所の瘡守いなりは。當社を勸請なりといふ。いづれが新古をしらず。

武江圖説大圓寺の條に。瘡守稲荷とありて。傍に元小石川白山に在り。今此寺地へ移すと見ゆ。兩既一定せず。飛鳥川にも二ケ所あるよしをいへり。

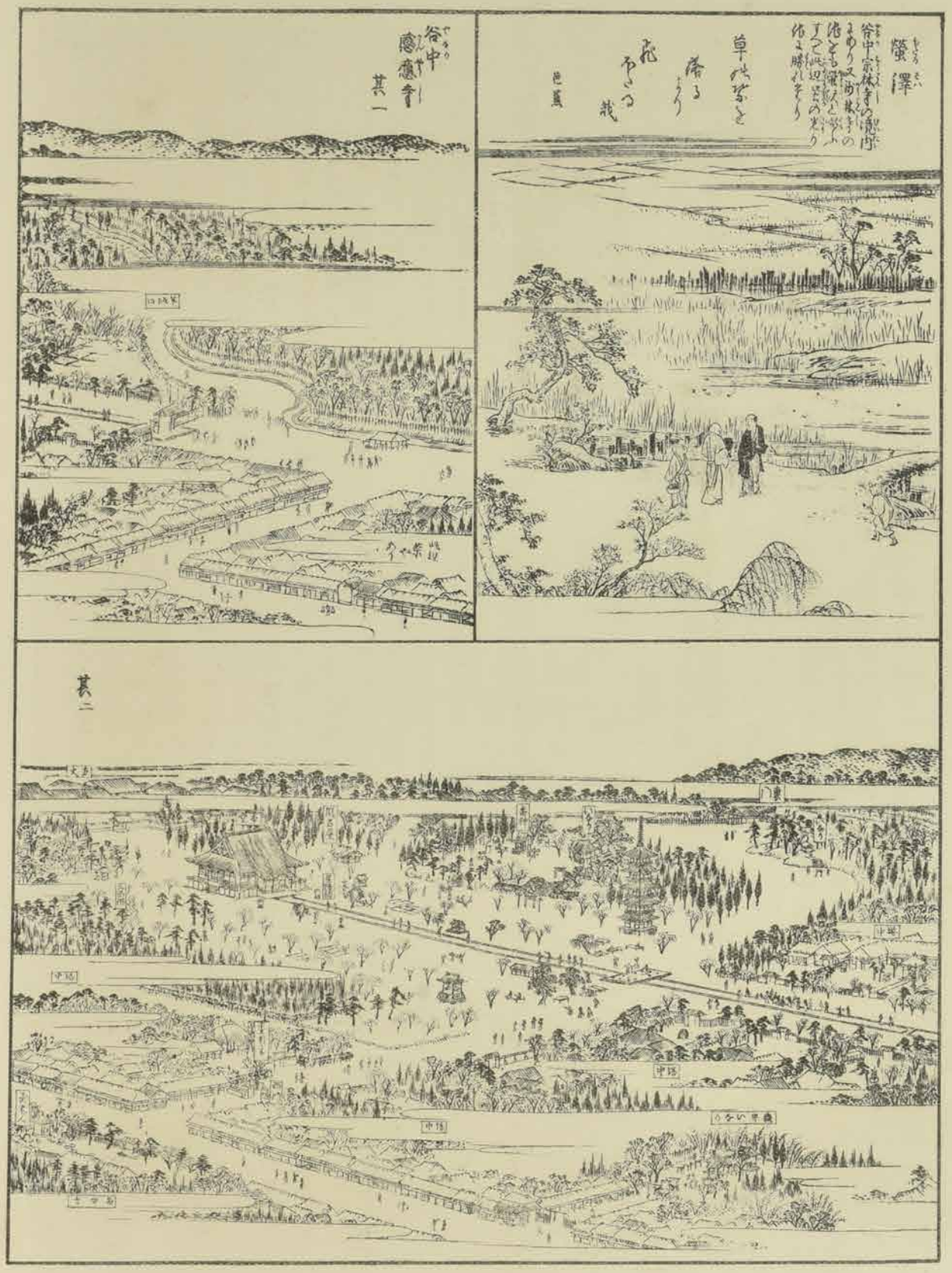
飛鳥川に云。谷中瘡守の稲荷は。白山御殿迹大前氏の鎮守を移し天明寛政のむかし。おせんといへる美婦の團子うれるにぞ。頗る群參の信をおこせしが。彼女去て祈る者の薄くなりしは。いかなる願や有けんとおかし。ちなみにいふ。抑瘡守稲荷は大前孫兵衛が祖先攝州の產にて。芥川の笠森稲荷をやしきへ勸請せしを。土をさゝげて病を祈り。愈て米をさゝぐる團子の奇瑞ありて。其やしきへ參詣多くありければ。他聞を憚り己が菩提所なる谷中大圓寺へ享和年間に納めたりしを。寫せしいなりの方ふなじ谷中に古く大圓寺に有ては。二の舞なるを憤り。寺社司に願ひ。先の稲荷を笠守の文字とし。こなた瘡守の本社を願はせしが。今は雙社ともに格別の群參もなし。天保度予大圓寺和尚に一話の時。和尚のいへるは。此神攝陽のみなもとを知らず。大前氏も委しくせず。願くは浪華の役の時。芥川にたづねてよとの事を託せらるゝに付。芥川を問はするに。森の形の笠の如きをいふて。笠森荷稲と呼び。民俗笠と瘡のひゞきにて。瘡毒を祈ることゝなりたるよし。石山三位の緣起を得て。大圓寺にとらせける。予彼の大前のやしき迹に住し比にて。のがれがたき故に芥川を問あかしける。嗚呼谷中兩社の爭ひ。瘡といへるを笠と書かへ〳〵は。攝州の笠森に自然と合たるも一奇ならずや

○法受寺は同町四十六番地に在り。普賢山と號し。新幡隨院と稱す。淨土宗にして開山は幡隨院可碩和尚とす。即ち其の退隱所なり。此地はもと溝口家の屋敷なりしが。寶暦四年同家開基となりて。當寺を建立す。信仰の徒多く木石を寄進し。參詣の老幼埋築の土砂を運搬し。日ならずして。堂舍成就すといふ。當寺門前に延命龜甲地藏菩薩の石標を建て別に後深草天皇御尊影殿。宮内省御下賜金百圓と掲示しあり。
○妙圓寺は同町六十番地に在り。圓住山と號し。觀智院と稱す。日蓮宗にして本所法恩寺末。開山は圓住院日如上人にて。元神田に在りしが元禄十七年現地に移る。
○妙法寺は同町六十三番地に在り。龍江山と號す。日蓮宗にして。下總國中山法華經寺末にて。開山は日如上人なり。慶長十三年の創立にして。初神田に在りしが。承應元年谷中茶屋町に轉じ元禄十六年現地に移れり。傳教大師作の鬼子母神を安置す昔時寺中に詮量院。榮樹房、學詮房、正善坊、春陽坊あり。當寺に七裏大善神といふあり。福を司る巳の神の内とて。中々に繁昌せり。七裏とは七面の反對なるよし。
○正運寺は同町六十四番地に在り。立光山と號す。日蓮宗にして京都本國寺末なり。開山は日蓮上人とす。
○天龍院は同町六十六番地に在り。海雲山と號す。臨濟宗にして淺草海禪寺末なり。開山は梅岩和尚にて。寛永七年の創立にして元神田寺町に在りしが。慶安元年上野清水門に轉じ。後現地に移れり。寛永以來幕府に梅花を獻ずるを例としたり。

●谷中三崎南町

◎位置及地勢

谷中三崎南町は其の地形凹凸ありて犬牙錯雜す。東は谷中町と其の界を交へ。西は眞島町と谷中阪町とに連り。南は谷中町の一部と谷中阪町に接し。北は道路を隔てゝ初音町一丁目に對せり。地勢は西に赴くに隨ひ低窪なり。土地の番號は一より七十



七に至る。

◎町名の起原幷沿革

谷中三崎南町は昔時は谷中西光寺門前。谷中自性寺門前。谷中感應寺門前と唱へたる土地なりしが。明治五年寺地と谷中村の内を併合して今の町名を附し同二十四年三月に至り。元谷中村の内字瑞輪寺前。上三崎三角及び谷中町の内を編入せり。

●諸寺院

○感應寺は谷中三崎南町二番地に在り。光照山と號す。日蓮宗にして下總國眞間の弘法寺末なり。開山は日感上人にて。慶長元年の創立なり。求涼雜記に云舊地神田に在りしを以て。俗に神田感應寺と云へり。

傳教大師作多田滿仲の守本尊と稱する毘沙門の像を安置す。

○自性院は同町六番地に在り。本覺山と號し。愛染寺と稱す。眞言宗にして。開山は道意上人なり。昔時門前町屋あり。

○大泉寺は同町十四番地に在り。清林山と號し。西光院と稱す。天臺宗にして東光院末なり。開山は亮海法印とす。

○長久院は同町十七番地に在り。眞言宗にして本所彌勒寺末なり。開山は宥意法印にて。慶長十六年神田北寺町に創立し。慶安元年現地に移れり。

○西光寺は同町二十番地に在り。佛到山と號し。無量壽院と稱す。眞言宗にして本所彌勒寺末なり。開山は宥義法印とす。開基は藤堂高虎のよし。門前に高虎の納めし石の韋駄天あり。當寺初神田北寺町に在りしが慶安元年現地に移れり。

○永久寺は同町三十三番地に在り。曹洞宗にして玉林寺末なり

○龍谷寺は同町三十五番地に在り。寂照山と號す。日蓮宗にして下野國佐野妙顯寺末なり。開山は日悅上人とす。

○本通寺は同町三十七番地に在り。寶榮山と號す。法華宗にして越後國本成寺末なり。開山は日卯上人とす。

○願神寺は同町四十四番地に在り。

○蓮華寺は同町四十六番地に在り。寂靜山と號す。日蓮宗にして下總國中山法華經寺末なり。開山は日賢上人とす。

○瑞輪寺は谷中三崎南町五十七番地に在り。慈雲山と號す。日蓮宗にして甲斐國身延久遠寺の末なり。

開山は日新上人にて天正十九年日本橋馬喰町に創立し。慶長六年神田筋違橋に移り。慶安二年更に現地に轉ず。往時日蓮宗兩派の觸頭七組十四ヶ寺の筆頭たり子坊十五を有せり。

本林院　本妙院　體仙院　大乘院　正行坊　本立坊
善乘坊　久成坊　玉泉坊　玄妙坊　情延坊　瑞泉坊
惠遠坊　大輪坊

現存せるもの五坊、本妙五十番地、體仙六十三番地、正行六十四番地、久成六十五番地、情延六十二番地是なり。而して今は共に院と稱せり。

東南畔に祖師堂あり日蓮自作の木像を安置す。俗間に飯匙の祖師と唱へ。出產に靈驗ありとの說を傳ふ。又隣寺感應寺の本尊なりしが元祿年間故ありて當寺に歸す。

什寶には日蓮筆大曼荼羅一幅、日新筆曼荼羅一軸、探幽筆蓬萊山圖一幅等あり。

有名なる墓には詩人大沼枕山翁、畫家河鍋曉齋、舊文部大臣井上毅等の墓あり。又元祿十四年十二月十四日吉良邸に於て打死したる清水一角の墓あり。

大門に至る左右には老松高く聳て。翠色を抽んで。支院散在し共立谷中慈愛幼稚園あり。山門には瑞輪寺の金字額を揭く。正三位勳一等井上毅と署名せり。門內には鐘樓あり。松欅石路を挾みて列植し正面に大本堂巍然として立てり。瓦甍にて棟上を

仰げば井形に橘の紋を並べ附したり。西畔墓域には巨碑林立し中央入口の傍に石幹の井ありて。銘文を刻す。記者の至りしは適々薄暮なりしが。大久保主水云々の文字を確認せり。

鬼子母神、毘砂門天を安置す。

○法藏院は同町六十六番地に在り。光雲山と號し。元道寺と稱す。天臺宗にして東光院末なり。開山は豎者法印とす。慶長十七年神田北寺町に創立し。慶安元年現地に移れり。

○金嶺寺は同町六十八番地に在り。天臺宗にして東光院末なり開山は慈眼大師とす。寛永十七年の創立に係る。

慈眼大師作の不動尊、及如意輪觀世音を安置す。

○妙行寺は同町七十五番地に在り。正榮山と號す。日蓮宗にして能登國妙成寺の末なり。開山は日長上人とす。

昔時寺中に遠行院、長榮坊、常誦坊、丁玄坊あり。

○延壽寺は同町七十六番地に在り。大乘山と號す。日蓮宗にして甲斐國身延山久遠寺末なり。開山は覺性院日勤上人とす。

當寺に日荷上人を祀れるあり。俗に日荷さまと稱し。足一切の病に効驗ありとて。下駄、草鞋の類を納るもの多し。是は上人武藏金澤に居りし際。稱名寺の住僧と碁を圍みしに。住僧賭するに仁王の像を以てす。蓋し一人にて持ち去ること能はざればなり。上人勝ちたりしかば。直ちに之を負ぶて去る。住僧追へども及ばず。上人遂に身延山に登るといふ。是より大力の外に健脚の名高く聞ゆ。因て俗間にかゝる信仰を生せしなり。

●谷中三崎北町

◎位置

谷中三崎北町は初音町二丁目に對し。西は谷中三崎町に接し。南は初音町一丁目に連り。北は同三丁目に面せり。町内丁字の路を通す。土地の番號は一より三十一に至る。

◎町名の起原並沿革

谷中三崎北町はもと谷中觀音寺門前谷中養泉寺門前谷中明王院門前谷中觀智院門前と唱へし土地なりしが。明治二年之を合一し且つ寺地を加へて今の町名を附し。同二十四年三月に至り。元谷中村の内字安立寺横町等を增加せり。

●諸寺院

○本立寺は谷中三崎北町五番地に在り。妙見山と號す。日蓮宗にして京都本國寺末なり。開山は日惠上人とす。

相馬將門の守本尊と稱する妙見大士を安置す。

○加納院は同町六番地に在り。長谷山と號し元興寺と稱す。眞言宗にして本所彌勒寺末なり。開山は尊慶法師にて慶長十六年の創立なり。初神田北寺町に在りしが。延寶八年現地に移る。本尊は惠心僧都の作阿彌陀如來なり。愛敬歡喜天(聖天)及本地十一面觀世音あり。

當寺安置の弘法大師は府内八十八ヶ所の内第六十四番の札所にして。伊豫國新居郡神戸村前神寺の寫なり。

○觀音寺は同町七番地に在り。蓮葉山と號す。眞言宗にして本所彌勒寺末なり。開山は尊雄法師にて。慶長年間の創立に係る初神田北寺町に在りしが。後に現地に移りたり。

○長安寺は同町九番地に在り。大道山と號す。開山は老山和尚にて寶永元年の創立なり。境内に正安二年の古碑一基あり。尚ほ現代の大書家狩野芳厓の墓あり。當寺は昔時庵室なりしよし

○養傳寺は同町十番地に在り。運立山と號す。日蓮宗にして甲斐國身延久遠寺末なり。開山は養傳院日立上人にて。俗間に當寺を谷中鶯寺と云ふ。

○常在寺は同町十四番地に在り。感應山と號す。日蓮宗にして甲斐國身延久遠寺末。開山は日近上人なり。

○養泉寺は同町十八番地に在り。長清山と號す。日蓮宗にして伊豆國玉澤妙法華經寺末なり。
○興禪寺は同町二十二番地に在り。清德山と號す。宇治興聖寺末なり。
○安立寺は同町三十番地に在り。常信山と號す。法華宗にして本法寺末なり。開山は日親上人にて。開運祖師を安置す。

●谷中初音町（自一丁目至四丁目）

◎位置及地勢

谷中初音町は當區の北南隅に位して。其の地形一丁毎に同じからず。其の一丁目は東西に細長く。東は茶屋町の一部と當町二丁目の一部に對し。西は谷中三崎町に連り。南は三崎南町に面し。北は三崎北町に隣れり。其の二丁目は東方は天王寺町に沿ふて南北に横はり。西は道路を隔てゝ三崎北町に面し。南は茶屋町に連り。北は當町三丁目に接す。其の三丁目は稍々方形を成し。東は天王寺町に連り。西は當町四丁目に對し。南は三崎北町に密接し。北は北豐島郡に界せり。其の四丁目は當町中最も廣濶にして南北に延長し。殊に北方に斗出し。東南は三崎町に接し東北は北豐島郡に界し。西方は總て本鄕區に隣れり。此四丁目は凹地にして藍染川經流して其の境を劃せり。

土地の番號は左し如し。

一丁目　自一至四六
二丁目　自一至一八
三丁目　自一至四〇
四丁目　自一至一九二

◎町名の起原並沿革

谷中初音町は谷中に在りて。其の四丁目に鶯谷と稱する處あるより明治の初年新に町名とせるなり。

一丁目は元祿十五年開設せる市街地にして。幕府時代は天王寺新門前と唱へしが。明治二年今の名に改稱して一丁目とし。四年北側南側の二町に分ち。六年之を合して一町とす。二十四年三月に至り。更に谷中三崎町の内及び谷中町の内を加へたり。二丁目は元祿十七年開設せる市街地にして。もと天王寺中門前と唱へしを。明治二年今の名に改稱し。二丁目とせり。三丁目は慶安元年市街を創建せる地なりしを以て。もとは天王寺古門前町と唱へしが。明治二年今の名に改稱して之を二丁目に屬し。六年更に近傍の土地を併合して三丁目と爲し。二十四年に至り谷中村の内字七面前、螢澤を合せり。四丁目は從來里俗に六阿彌陀横町又切手町と唱へたる土地なりしが明治四年九月新に今の町名を加へたり。同二十四年三月に至り。元下駒込村の内字東谷田元日暮里村字南久保の内及び元谷中村の内字下三崎飛地を併合したるものなり

◎景況

當町一丁目は茶屋町より三崎町を經て根津團子坂に至る通路なるを以て。來往の人絶えず。左右寺院多く。初音すし、名物うんどん、砂場、厚燒鹽せんべい等の商店あり。二丁目以下は總て幽靜にして。三丁目には實に螢澤の名所たり。四丁目三十八番地にリボン製織及販賣を爲せる岩橋營業場（明治二十九年七月設立）五十八番地に山崎染工場（三十四年八月設立）百七十一二番地に繃帶材料製造所（三十四年十二月設立）あり。

●諸寺院

○觀智院は谷中初音町一丁目二十三番地に在り。醫王山と號し東漸寺と稱す。眞言宗にして。本所彌勒寺末なり。開山は照譽和尚とす。慶長十六年の創立にて、元神田北寺町に在りしが。慶安元年現地に移れり。

○明王院は同町二十八番地に在り。天瑞山と號し。觀福寺と稱す。眞言宗にして本所彌勒寺末なり。大聖歡喜天を安置す。昔時八幡社ありたりといふ。
○同生庵は同町三十五番地より四十四番地に亘る。普門山と號す。臨濟宗にして。富山縣氷見郡太田村國泰寺末なり。明治十三年山岡鐵舟の開基にて松尾越叟之が開山たり。什寶には南天竺毘首羯摩作の葵正觀世音木像。鐵舟所持の護皇刀。小松宮殿下御筆の扁額等あり。
○功德林寺は同町二丁目八番地に在り。
○海藏院は同町三丁目二十八番地に在り。福聚山と號す。臨濟宗にして京都妙心寺末なり。開山は關津和尚なり。
○靈梅院は同町三十二番地に在り。百丈山と號す。臨濟宗にして淺草海藏寺末なり。開山は神龍和尚にて開基は境野六左衛門なり。初芝金杉にありしが。貞享元年現地に移れり。昔時境内に初音の森といふ森林ありしが。火災に逢て。今は其の名のみを存せり。
○龍泉寺は同町三十四番地に在り。長光山と號す。日蓮宗にして下總國眞間弘法寺の末なり。開山は日感上人にて元和七年の創立に係る。元下谷に在りしが。後現地に移れり。日蓮上人自作の像を安置す。元寺中に常泉坊ありしよし。
○長明寺は同町三十八番地に在り。日照山と號す。日蓮宗にして京都六條本國寺末なり。開山は日長上人にて。開基は志村八兵衛といふ。慶長十四年の創立に係る。昔時寺中に蓮行院、常誦坊、長榮坊、了玄坊等あり。
○宗林寺は同町四丁目二十六番地に在り。妙祐山と號す。日蓮宗にして京都本國寺の末なり。開山は日心上人にて。開基は齊藤宗林（德川家康の茶道）なり。初駿河國府中にありしが。天正年間江戸昌平橋外に移り後上野東寺町に轉じ。元祿十四年更に現地に移れり。日蓮の像を安置す俗に舟守祖師といふ。昔時寺中に惠心院、敎明院、園龍院、了運院あり。境内を螢澤と稱す。其事は別項に記載す。

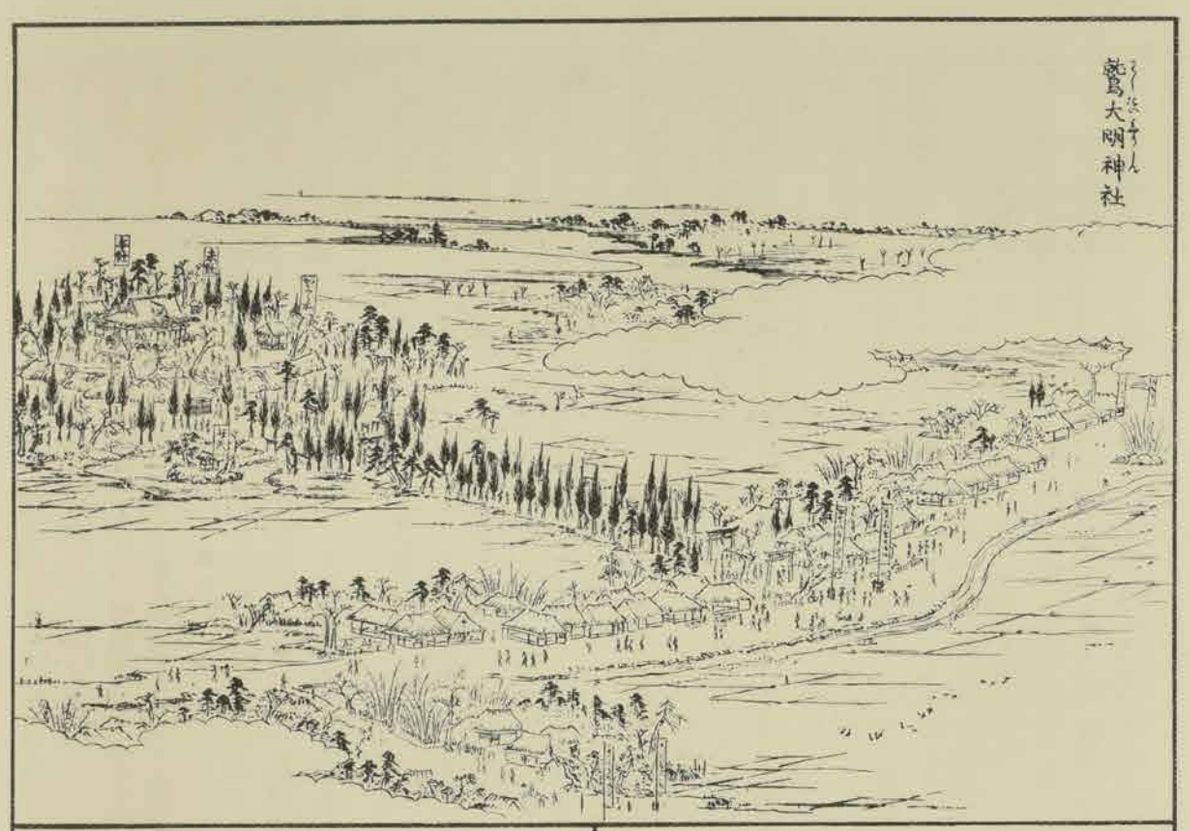
●螢澤

螢澤は初音町四丁目宗林寺の地をいふ。從來螢の名所とす。江戸砂子に螢澤。螢川とも云。三崎宗林寺の地なり。他にすぐれてほたる大にて光も殊によし」と見え。新編江戸志宗林寺の條に「予此處に至りて里人に問ふに。すべて此邊螢多き故に螢澤といふ」としるし。又別に螢澤と題して「むかしは流れ廣くして螢多くありしと也。谷中の内に二所あり。三崎妙林寺の邊りをむかしはすべていふ。今も妙林寺内の螢澤の池はづかに殘る。又日暮里宗林寺の邊も螢澤といへり」とあり。又武江圖說妙林寺の條に。田中辨天とありて此地をも螢澤と云。辨天の前にはづかに池の形殘れり」と載せたり。かゝれば。螢澤は兩所なるや。但下にしるす近衛公の詩に日暮（宗林寺の邊は切繪圖に日暮とあり）の字見ゆれば。今は姑く宗林寺の地とす。文化年間近衛左大臣宗林寺に來遊せられたることありて。住持日行上人に左の詩を寄せられたりといふ。

螢澤難尋當日暮。蕭條寒院一燈孤。遊人若問清光影。變化山僧衣裏珠。

●鶯谷

鶯谷は初音町四丁目に在り。根岸にも同名の地あること前編記する所の如し。此處も根岸と同じく。上野の宮甞て多くの京鶯を放させ給ひしを以て其の聲殊にすぐれたりと稱せり。砂子には「溝口家下やしきの向寺院七ヶ寺ある谷なり」とあり。新編江戸志には「日ぐらし里の上の方をいふ」と見ゆ。



●野中の井

新編江戸志に云野中の井　又柏木の井　三崎の内やしきのうら江戸鹿子云。そのかみ柏木といへる。遊女のありしが。つれし男にはなれ。ひつまじき人なければ。こゝにあはれなる庵をむすびて。みとせばかりも住居してはかなくなりぬ。そのからを里人埋みてしるしに榕の木を植て墳墓のしるしになし。卒都婆を立て一首の歌をかく。

かひそなき野中の清水淺けれは
　きへてあとなきいもかおもかけ

その榕の木大木となりて今に有なり。瘧病をはつらふもの。其木のもとに行て立願すればたちまち落るといふ。いなりの邊の井も今にあり。是を野中の井と云々。

江戸砂子にいふ。此井を尋るにかなたこなたして。小き清水の井にちかづく。此地のあるしに問ふに。老人答て曰。われ此地を求めて四十年成なれば。そのむかしをば知らず。さきのあるしの云は。此井は柏木の井といふなり。これにつきて一軸の書ものありあたふべしとありしが。とかくしてその事なしとかたるさればてそ。此井なり。柏木と云女のすみしあとの井なればさもいふべしと。くだんの事をかたるに。あるじの老人野中の井なる事をはじめてしれり。この井さへうしなへるなれば。その古墳のかたちもなし。所は三崎溝口家やしきの片側町大溝より半町ほど南の方なり。

按するに予一とせ此邊を尋るに茶店の老嫗の云。此井今はしゑ紙屋のうらなる井なり。その水の清き事いはん方なししかるを近年法行寺内の井をもて野中の井といひて。皆人是とおもへるなりと語る。涼水なるゆへ野中の清水のところならんなど。茶店にあるも。此井より出る成とぞ。この井は古き事跡なり。もし涼なかりせば此井のあり所をうしなふべし。涼が書殘せるゆへに。予も尋ぬる事を得たり。是等江戸砂子の賜といふべし。

○お菊の墓

江戸砂子云。お菊が墓　同じ邊二三町北坂下の小溝のはた垣根にあり。七面と書る小き碑を立る。里諺曰。むかしおきくと云女此所にて死。末期に云。我人にあらぬ死をす。後世の人われをいのらば病苦をたすくべしといふ。それより今にしてもろ〳〵のはやり病あるひは乳のなき者。又は眼病など願をかくるに其しるしあり。願成就の時。七本卒都婆又は榕を立る也。供養の心なるが。願をかくる時。後を見ずして歸ると云。

新編江戸志云。按ずるに予てゝの里人にとふに。里老答へて云其事たしかならず。翁わかゝりし時は。さばかりの翁のありしは。此墓むかしよりありて。いつの比といふ事さたかならず。相傳へていへるは。山伏の妻おなつといへるが。此處に行がゝり。難産の上おこりにて死す。故にちかひておこりと難産をすくうべしといふよし。又人に打れ此處にて死すなどゝいへり。三十年ばかり前は七面の石碑一つならでは無し。今はいつのほどにかいくらともなく建るなりと語る。

武江圖說に云。お菊が墓。お夏とも云。三崎町より二三丁北坂下に溝の端七面と云ふ。小き石碑あり。難產おこりを祈り。又目の病をいのるとも。或乳のなきもの其の外さまゞ〳〵の願をかくるに其しるしあり。願成就の時は七本そとは又は榕を立るとなり。

三崎より千駄木の方へ通ふ道

●谷中茶屋町

◎位置及地勢

谷中茶屋町は一小市街にして。東は谷中の墓地に面し。西は初音町一丁目に對し。南は谷中町と三崎南町とに隣り。北は天王寺町の一部と初音町二丁目の一角に連れり。地勢は尚ほ高燥なり。土地の番號は十一に過ぎず。

◎町名の起原並沿革

谷中茶屋町は。もと天王寺表門前及び新茶屋町と稱せし地なり明治二年に至り之を併合して更に今の町名に改稱し。南側北側の二町に分ちしが同六年復た之を合一にせり。

○いろは茶屋

武江圖說にいろは茶屋感應寺門前とありて記して云。元いろはと書たる暖簾したる水茶屋あり。今なし。此邊地名のやうに呼べり。

◉谷中天王寺町

◎位置及地勢

谷中天王寺町は當區の西北隅に位し。東は上根岸町と上野公園に連り。西は茶屋町。初音町二丁目同三丁目に對し。南は公園の一部及び谷中町に臨み。北は總て豐島郡に界せり。地勢は忍ヶ岡に續きて高く。北東は崖阪にして。舊日本鐵道線を俯瞰す土地の番號は一より四十八に至り。其中第四を缺けり。

◎町名の起原並沿革

谷中天王寺町は。もと谷中村の内にして。明治維新後。尚ほ舊名を襲ひ居りしが。同二十四年三月に至り。村内字天王寺前、銀杏横町。芋阪を以て本町とし新に今の名を附したるなり。

◎景　況

當町は谷中墓地其の八分を占め。天王寺等の寺院又其の一部を占め。市街地の如きは又其の一部に過ぎず。葬儀等は殆むど日々に行はれ。參詣者絶えず。一大香火場と稱して可なり。

●天王寺

天王寺は谷中天王寺町三十四番地に在り。昔時は長耀山尊重院感應寺と稱し。日蓮宗なりしが。元祿十二年寺僧罪あり。是より天臺宗に改めらる。天保四年八月更に護國山天王寺と改稱し以て今に至れり。

往昔日蓮上人關東旅行の途次谷中村土著の武士關長耀の家に宿し。自ら其の像を刻し。記念として之を贈りたるを。長耀草庵を結びて安置したるもの。卽ち當寺の起原なり。是ぞ應永頃の事にして日源上人を開山とす。降りて寛永年間に至り。將軍德川家光地を給與して寺院を擴張せしめしより遂に一巨刹となれり。當時上野の寛永寺を叡山に擬せしに因り。當寺をば鞍馬山に比し。叡山の横川圓乘院に在りたる傳敎大師直作と稱する毘沙門天の像を移して。之を本尊とせり。

寺域は實に三萬四千三百九十坪にて。殿堂の宏壯寛永寺に亞げり。明治以前は境内花樹多く來遊の吟客少からざりしといふ。戊辰の役上野戰爭の際當寺は彰義隊の分營たりしを以て兵燹に罹り。僅かに本坊と五重塔を殘せしのみ。其の後寺域の過半は共同墓地に編入せられ。全く舊觀を失へり。

武江圖說云長耀山感應寺　天臺上野末　寺領三十八石

開山日蓮上人二世日源上人　中興開基十世日長上人

元日蓮宗道場　其頃寺中二十六軒有　元祿中天臺宗に改

△本堂　毘沙門天　傳敎大師作　鞍馬山うつし

△彌陀堂　△富愛辨天　△愛染堂　△閻魔堂　△唐銅丈六釋迦

△五重塔　日長上人建る處。此塔甚奇也。今御府内是に勝れるはなしと云。明和九年二月炎上。寛政四子頃迄に再建。

△淺黄櫻　△釋迦杉

△地中不動院百觀音

塔頭　瑞音院　善明院　正福院　了信院　圓曉院　養善院
安立院　福泉院　龍珠院　了音院

△正五九月十八日富興行

神事錄に云感應寺五佛院と號元日蓮寺也住持故ありて流罪寺を東岳に賜ふ因て天臺宗となり

御門主輪王寺公辨親王の命にて。權僧都法印幸尊を住職とし。傳敎大師彫作の多門天を本尊とす。感應寺領三十八石を相違なく寄附せらる。

墓地には名家の墳墓多し。悉く別項に記載す。今こゝに近世有名の書家卷菱湖の碑文を揭ぐ。

卷菱湖碑

朝川鼎

先レ是十餘年前、菱翁自二帝京一歸、其志嘐々然大且誇曰、余自レ少好レ書、長而愈篤、今既已過レ五望レ六、猶且汲汲矻矻、不レ能二已已、其間古今碑版墨帖、靡レ不二悉以臨摹一、書譜論評、靡レ不二悉以講究一、見聞既廣、所レ得極多、竟自成レ說曰、文字之義、待二訓詁一而通、訓詁之學、得二六書一而備、古籍散佚、在二今日一其可レ見者、爾雅說文二書耳、爾雅訓詁之書也、說文六書之學也、但許氏之於二六書一、形勢之外、所レ得無レ幾、然經籍遺文傳注、豈無二金石古字一、假借猶多、所レ說雖レ異、其義則同、及二後世一古文稍廢、篆隸草行、紛然錯出、體或不レ同、亦皆有レ取、倘能斟二酌右今一、分二別雅俗一、以講二求源流所レ在、則六書之用此可二以通一レ彼、彼可二以考一レ此矣、余嘗著二十體源流一書一、以示二子弟一、是字學所レ由、書法所レ出、不レ可レ不レ知也、蓋晉人能得二其理一者也、唐人能傳二其法一者也、若二歐虞褚柳顏一、皆能傳二其法一、而變二其體一。得二於心一、應二於手一、瀟洒流落、行二筆於所レ無レ事、故不レ落二世檢一、而天度自全、其餘雖レ狂若二旭素一者、不レ煩二繩削一、自中二乎矩一、唐人之於二書法一、於レ斯爲レ盛、宋元明其衰矣、唐人具跡、不レ可二多見一、所レ存者止石刻、石刻雖レ善、刻手非二摹手一、摹手非二書手一、合二三手一、爲二一筆一、安能保二其無二毫釐之差一哉、故一定武也、肥瘦剛柔、或不レ能レ同、但能合二諸刻一、仔細看レ之、猶可二以定二佳否一、獨至二於用筆之術一、非二石刻所一能盡レ也、然舍二石刻一、又無レ可レ見、是自レ非下眼透二紙背一者上、難乎得二其眞一矣、竟又成レ說曰、結字之妙、雖二石刻一猶可レ見、用筆之微、非二眞蹟一不レ能レ盡、余四十年間、眞積レ力久、古人用筆妙處、由レ心悟入、似レ有レ所レ得、竟以自信、蔑二視一世一、而橫二行天下一矣、頃遊二帝京一、謁二左大臣近衛藤公一、公有二賀季眞草書孝經一、庋藏淸秘、非二吾輩寒儒力所一能覩一也、一日公辱賜二拜觀一、何幸何幸、一部千八百餘字、筆力縱橫、變態無レ窮、不二必言一也、其起二於此一、而止二於彼一、或輕或重、乍徐還疾、忽往復收、如是是印印泥雖畫沙也、折釵股也、屋漏痕也、古人用筆妙處、歷歷在レ眼、所レ謂親切著明、見二諸行事一、蓋謂レ此也、若二石刻一、豈見レ之哉僅傳二影響一耳、余已在二石刻一、略知二梗槩一、今見二眞蹟一、便究二微妙一、至レ是又自覺余書法更進二機層一矣、當二是時一、志嘐々然大且誇、其詞氣激昂、叱咤逼レ人、雖二知而愛一レ之如レ余者一、一時聞レ之、末二嘗不レ驚二其言若二河漢一也、既而思レ之、翁四十餘年之久、焦心苦思、勤二於學一、而精二於業一、其所二自信一者、與二古人一不レ誤、則喜極之至、不レ知二言涉二誇大一、是豈誇大之云乎哉、蓋實事也、翁卷氏、諱大任、字致遠、號二弘齋一、又號二菱湖一、新潟人、幼喪二怙恃一、家既稍落、翁奮然欲下別建二門戶一、以振中家聲上、年十九、負レ笈遠來二江戶一、受二業於鵬齋先生一、先生素善二書法一、翁與レ之上二下其議論一、大有レ所レ得、自レ是專攻二六書一、兼講二音韻之學一、又好作二唐詩一、其論法最嚴、故矜愼不二肯苟作一、作必醇乎唐音、亦一作家也、遂占二籍江戶一、開レ門敎援、從遊日多、遠近乞レ字者、蹟接二於道一、縉紳公侯、延聘受二其書法一、業大振、名亦隆隆起、爲レ人卓犖負レ氣、足二以自豪一、又嗜レ飲以自放、客至則狂歌拍浮、窮レ晝繼レ夜、不二以爲レ倦、然酒間興到必命筆、且飲且書、千紙立就、其筆力縱放、勢欲二飛動一、故問レ奇者、必

載レ酒而往、翁嘗應二人請一、卽席書二數紙一、其人嘆賞曰、咄咄逼二眞於松雪一、翁更取二其書一、反覆熟視曰、余書不レ誤、余於二歷代名家一、無所レ不レ學、故形似耳、心血所レ注、在下以二唐人書法一出上之、彼那得レ知也、翁一生所二自信一者、斯言足二以盡一之、又足二以不朽一矣、天保十四年癸卯四月七日病卒、年六十七、葬二於谷中天王寺一、娶二竹原氏一、先卒、子男一人、弘化三年歲在二丙午一夏四月

谷中五重塔

谷中の五重塔は芝、淺草、上野の三公園に在るものと共に東京市內佛塔四基中の一なるが。本年二月市費を以て保存するを期し。其の保管方を東京市廳に依賴したるよし。

此五重塔は高さ十一丈八尺八寸。九輪二丈七尺中心柱十一丈八寸軒端三間四方、軒高八丈六尺當時名工の苦心になりしものなり。今を距ること二百六十五年前寬永二十年十一月長耀山感應寺住職日長の發願にて起工し。翌正保元年七月に竣工したるものなるが。安永元年二月二十九日火災に罹り、烏有に歸せしを以て再建をなし。寬政三年十一月に至り竣工したるもの卽ち現在の塔なり。

感應寺は是より先き天台宗に改宗して。今の天王寺となり。明治七年同所を共葬墓地に設定せられし以來。境外佛塔として內務省より若干の保存費を下附せられ。現今にては百九十餘圓の積立金を有するも此の如き小額にては。到底永久に保存する能はざるを以て今回塔內に在る四體の佛像と共に市に寄附したるものにして。市に於ては保存費を墓地費中より支出し。保管するよしなり。今左に建塔發願者たる日長上人が建設に際し。いかに苦心したるかを表明すべし。

江戶砂子上野日長が原の條に云。谷中感應寺の中興日長上人。五重の塔を建立す。銅をもつて瓦にせん事をねがふに。格式あり。日長上人此事を宮へ歎していはく。塔の修復はむづかしきものにして、土瓦にては後世のわづらひあり。よつて銅瓦にせん事を期して。宗祖日蓮への寨錢の中より古錢の分數千貫のけをきてかはりの價あり。ねがはくば此儀をゆるさしめたまへと願ふ。そのこゝろざしをかんじさせられ。御ことばをそえられしかば。御免ありけり。日長此御厚恩を報せんに金銀器財は恐れありと。そのころ當山開闢ほど近ければ茂うすしよつて境內の樹木手づから堀手づから植て。恩を謝したてまつる。今はふかき木立となれり。

○天王寺の富突

天王寺の富突は昔時有名なるものにして。東都歲事記に長谷川雪堤の畫ける圖あり。堂內前頭に大函を置き僧侶壇上に在りて其上蓋の穴より長桿を入れて函內の富札を突き。上下衣を著したる職員傍より高く其の番號を讀上る狀態を圖し。其の左には肩衣つけたる役人二名著座監視し。其の右には袴羽織の職員儿を連れて帳記し居り。而して群衆は總て堂前に雜立す。蓋し當時の實況なるべし。

幕府時代は湯島天滿宮。目黑不動堂の富突と。當寺の富突とは江戶市內にて最も旺盛なりしよしなり。

當寺の富突は江戶三富の一にして。其の定りたる場所は目黑、湯島、並に當寺なりとす。水野越前守忠邦幕府の老中となりて改令を改革するに際し。富突は風俗に害ありとて。天保十三年三月悉く之を禁止す。爾後此富突は全く斷絕せり。寬天見聞記載する所の記事昔時富の實況を述たるものなれば因みに之を揭ぐべし。

谷中感應寺。目黑不動湯島天神にて富興行あり追々に江戶中の諸社諸堂にて興行始り一月に二十四五會程ありて最初は富

の出番として賣あるきしが是を停止せられて後はお咄〳〵と言て一の富の番のみ書付て賣りあるくこと市中豎横數十人に及べり是は富の札を賣たるものゝ爲にあら第附とて一の富を當物にして一錢二錢を賭にす一文を八文にして取割合にて大慾の輩は大金を賭にするも有り强慾のなす所。淺ましといふべし場所の大略は谷中、目黒、湯島、淺草八幡、同觀音、同三社、同念佛堂、同大神宮、同閻魔堂、同團子天皇、同第六天、本所回向院、深川靈岩神、新川大神宮、芝神明宮、愛宕山、西久保八幡、麻布東福寺、本銀町白旗荷稻、杉森稻荷、下谷六阿彌陀、白山權現護國寺、根津權現、平川天神、茅場町藥師、品川天王、同庚申堂、是等を場所とす月並二三會の處もあり四季に行ふもあり札の代銀、當金の次第不同五十兩より千兩まで色々仕方あり會毎に寺社御奉行所より檢使來りて立あふことなり云々

●谷中墓地

谷中墓地は谷中天王寺の舊境內にして。五重塔より南位に在り明治七年九月開設せる共同墓地なり總坪數三萬二千五百三十八坪を有せり。

入口南位は祭場あり。入口に供花の賣店幷にふぢむら、三原やおもたかや、等の休憩店あり。

墓地には別項に記載せる諸名士の墳墓多し。殊に大久保參議を斬りたる島田一郎等。森文部大臣を刺したる西野文太郎。大隈舊外務大臣を傷け自殺したる來島恒喜の如き。同所に埋りあるは一奇といふべし。

東京案內記に。其の景況を記して云。頭を擧れば忽然五層の朱樓（素木造りにて朱塗にあらず）綠樹鬱蒼の中より涌き出てゝ千塔萬碑の其下に列植せらるゝを見る。問はざるゝ是れ谷中の共同墓地。その樓は卽ち天王寺の五重の塔。其塔碑は卽ち魂魂の憑る所累々たる苔石の下參差たる土饅頭の中。英雄豪傑鴻儒富豪若しくは貧賤無緣の者。老少を云はず。妍も醜も一たび無常の風の前には燈光露滴に均しく。人世の猿間しさ。かくて諸共茲に永眠して茲に枯骨す。西野文太郎、來島恒喜の血氣なるも。雲井龍雄、馬場辰猪の强の者も。佐藤尙中先生も中村敬宇先生も。落つれは同じ谷川のあはれ高橋お傳と枕を並べぬ。夜深け燈光明滅する時吉原遊蕩の客。費ひ果して最早や一文なく馬に乘て駒込邊に向ふもの。一たび此便路にかゝれば。始て目を覺す。彼は全盛の樂境。此は必衰の窮境。相呼應すれば人間萬事はさても塞翁の馬なるかなと觀し來れば總て此の如きものなりけり。

●谷中町

◎位置及地勢

谷中町はワ字形を成せる一市街にして。東は上野公園及谷中墓地の一角に對し。西は三崎南町に連り。南は上櫻木町の一部に隣り。北は茶屋町に臨めり。地勢は天王寺町に同じ。土地を區劃して一番地より四十番地と爲す。

◎町名の起原幷沿革

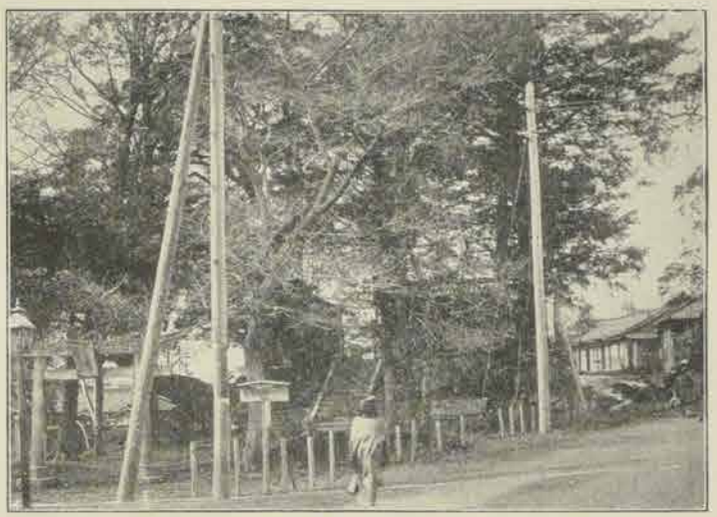
谷中町は舊谷中町と谷中總持院町及び寺地を併合したるものにして。卽ち舊谷中町は古の谷中村の內なりしが。元祿以後市街地となり。谷中町と唱へしもの。總持院町はもと神田寺町に在りしを。慶安元年此地に移して。總持院門前と稱せしを。明治二年に至り總持院町と改めしものに係る。明治十二年四月に至り。他の寺地をも併せ。今の町名を附したるなり

●諸寺院

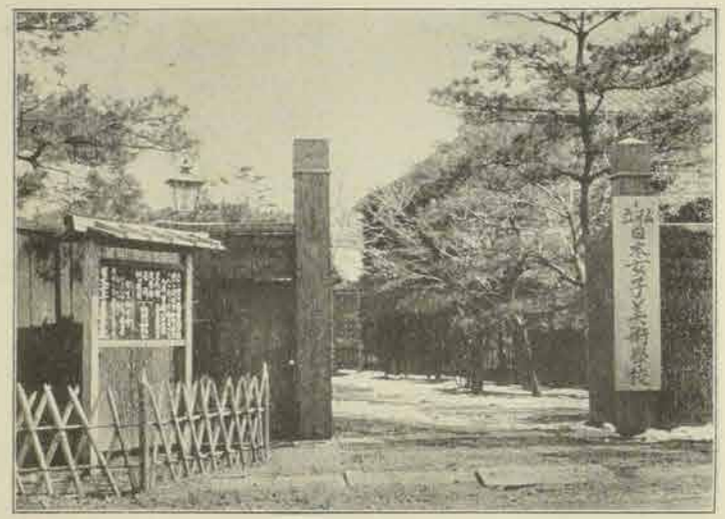
○大雄寺谷中町十九番地に在り。長昌山と號す。日蓮宗にして伊豆國玉澤妙法華經寺の末なり。

瘡守稻荷社

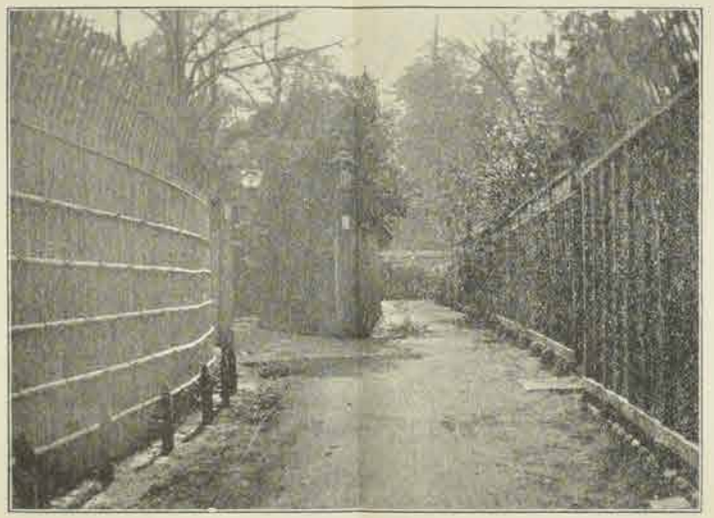
一乘寺



清水町（櫻下稻荷社）

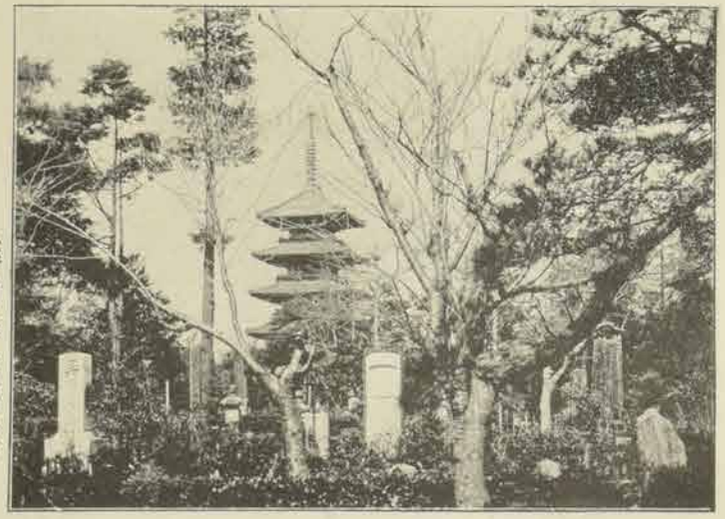


日本女子美術學校



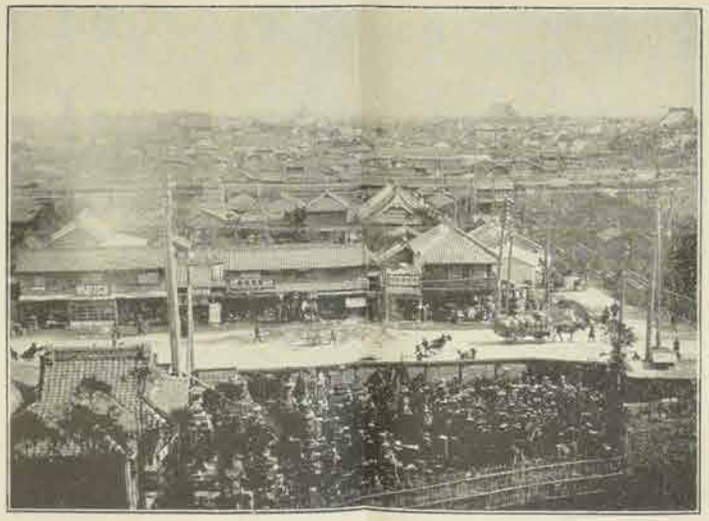
割烹店之門原

鶯溪



天王寺五重塔

（坪川辰雄撮影）



下谷淺草附近遠望

天王寺入口

慶長九年神田土手下に創立し。萬治元年現地に移る。開山は日達上人なり。

傳教大師作の摩利支天の像を安置す。

○大行寺は谷中町二十一番地に在り。圓妙山と號す。日蓮宗にして。本所法恩寺末なり。開山は圓妙院日感上人にて天正十七年の創立に係る。

傳教大師作の毘砂門天を安置す。昔時寺中に圓應坊あり。

○妙雲寺は同町二十七番地に在り。瑞應山と號す。日蓮宗にして。身延山久遠寺の末なり。開山は日登上人にて元和年間の創立なり。

○多寶院は同町三十二番地に在り。寶塔山と號す。眞言宗にして開山は宿辨法印なり。八十八ヶ所第四十九番の札所なり。

○惣持院は同町三十八番地に在り。廣隆山と號し。最勝寺と稱す。天台宗にして東光院末なり。開山は巣松法印にて。寛永十六年の創立に係る。元門前町屋あり。

●下谷區內有名の墳墓

大塚信調査

諸侯	藤堂高虎墓	稱和泉守 寛永七庚午年十月十五日卒年七十五法號寒松院權大僧都法印徹賢高山
同	內田正信墓	通稱權九郎仕德川家光 慶安四辛卯年四月二十日卒年三十九
同	松平輝貞墓	上州高崎城主也 延寶四丙辰年九月十四日卒年八十二
名士	向井將監墓	名忠勝仕德川氏大阪役有軍功 寛永十八辛巳年七月某日卒
畫	增山雪齋墓	名選字君選叙從五位下任河內守 文政二己卯年正月廿九日歿年六十九
儒	高玄岱墓	字子新稱新右衛門號天漪長崎人 享保七壬寅年八月八日歿年七十四
同	深見有隣墓	高岱次男 安永二癸巳年二月十五日歿
畫	狩野洞雲墓	名益信探幽義子 元祿七甲戌年正月八日歿年七十
同	同洞春墓	名福信洞雲男 享保八癸卯年十二月十二日歿
同	同元仙墓	名方信福信男 寶曆元辛未年五月六日歿
同	同洞春墓	名美信元仙男 寛政九丁巳年二月二十八日歿
同	五十嵐竹沙墓	名主膳字巨寶號達齋 天保十五甲辰年二月二十五日歿年七十一
同	住吉廣住墓	號具慶通稱內記廣道男 寶永二乙酉年四月三日歿年七十五
同	同廣保墓	廣住子通稱內藏允號至石 寛延三庚午年某月某日歿年八十五

上野櫻木町	寛永寺中寒松院跡	
同	同寺中現龍院	
同	同寺中明王院跡	
同	同寺中本覺院	
同	同寺中觀善院	
同	同寺中護國院	
同	同院	
同	同院	
同	同院	
同	同院	
同	同院	
同	同院	

同	同　廣孝墓	安永五丙申年九月六日歿 法號忠正院秋月齋孝居士	同　院
同	同　廣守墓	廣保二男稱內記號鑾至 安永六丁酉年十月廿一日歿年七十三	同　院
同	同　廣行墓	通稱內記號景金閣 文化八壬申年八月六日歿年五十七法號隆善院廣行逸道居士	同　院
同	同　廣尙墓	通稱內記廣行子號碩中 文政十一戊子年七月十一日歿年四十八法號眞達院謙山廣尙居士	同　院
同	同　弘貫墓	廣尙子稱內記 文久三癸亥年七月二十二日歿年七十一法號眞巧院徹道弘貫居士	同　院
同	同　廣賢墓	通稱內記 明治十六癸未年五月三十日歿年四十九法號常輕院探逵廣賢居士	同　院
名士	三浦茂正墓	通稱五郎左衞門號三五庵北條家臣也 正保三丙戌年三月廿三日歿年七十九法號稱陽院定譽淨心	同同寺中普門院
孝子	田宮坊太郎墓	讚岐丸龜人 正保二乙酉年三月二十一日歿法號空仁大德	同同寺中青龍院
書	猨山叡樵墓	名周號稱直江字季明篠田行休門人 安永九庚子年正月八日歿年六十	上野廣小路町常樂院
同	同　龍池墓	名秀盈稱多宮字進々直江男 寬政四壬子年十月廿五日歿	同　院
同	同　赤城墓	名周之稱左膳直江二男 文化三丙寅年二月二十八日歿年四十六	同　院
書	董九如墓	姓井戶名弘梁字仲魚通稱甚助宗紫石門人 享和二壬戌年七月二十三日歿年五十九	下谷南稻荷町法養寺
同	山崎蕃田墓	名蕃烈字先競 天保八丁酉年正月廿九日歿年五十二	同　寺
俳優	坂東又太郎墓	森田家祖也幼名又七郎元祖又九郎養子 元祿十七甲申年十二月二十八日歿年四十三法名正心院宗應日淨	同　寺
同	澤村源次郎墓	訥子門弟 寶曆三癸酉年四月廿五日歿法名源心院常久日如	同　寺
狂言作者	元祖櫻田治助墓	通稱笠屋善兵衞號左交 文化三丙寅年六月廿七日歿年七十三法號默了院左交日念	同　寺
狂歌	壁中塗墓	淸水氏稱忠右衞門四方赤良門人 天保三壬辰年十二月廿五日歿年六十四法號乘願院直至道西信士	同唯念寺
同	五清園方慈墓	中塗男稱忠藏石川五老門人 明治二己巳年十一月五日歿年六十九	同　寺
書	中川南山墓	名由儀字茂交住本所兩國 文政八乙酉年八月九日歿年七十二	同　寺
同	同　慮齋墓	名文彪字喞卿稱文十郎由儀男 慶應三丁卯年正月十日歿年七十七	同　寺
狂言作者	初代河竹新七墓	通稱進三俳名能進堀江勘次門人江戶人 寬政七乙卯年三月十四日歿年四十九	同寺中南松寺
書	高島千春墓	通稱壽一郎 安政六己未年十一月十二日歿年八十三	同寺中願壽中
書	柳生宗矩墓	稱又左衞門號如雲宗嚴子敍從五位下任但馬守 正保三丙戌年三月二十六日卒法號西江院殿贈四品大通宗活大居士	下谷北稻荷町廣德寺

同	同　三嚴墓	稱十兵衞宗矩三男 慶安三庚寅年三月廿一日卒年四十四法號長巖院殿金甫宗全居士	同　寺
名士	加々爪忠澄墓	仕德川氏任民部少輔甲斐守直澄子 寬永十八辛巳年某月某日卒年五十六	同　寺
諸侯	立花宗茂墓	稱左近少監 寬永十九壬午年十一月廿五日卒年七十六	同　寺
詩	菊池五山墓	名桐孫字無絃稱左太夫高松侯儒官也 嘉永二巳酉年六月廿七日歿年八十一	同　寺
儒	大內熊耳墓	名承祐字子綽稱忠太夫陸奧人仕唐津侯 安永五丙申年四月廿一日歿年八十法號敬心齋義山紹男居士	同　寺
同	菊池耕齋墓	京師人字東匀林道春門人仕久留米侯 天保二壬戌年十二月八日歿年六十五	同　寺
狂歌	笠々亭仙果墓	初代仙果門人通稱篠田久次郎 明治十七甲申年三月五日歿年四十八	同　寺
茶	縣宗知墓	號玉槩子上柳甫齋門人 享保六壬寅年六月廿七日歿年六十六法號見性宗知居士	同寺中德雲院
俳諧	木丹墓	天明七丁未年正月十六日歿年四十九	同寺中圓照院
奇人	天愚孔平墓	儒者也萩野氏名信敏字孔平通稱喜內雲州人 文化十四丁丑年四月朔日歿年百十法號大極院一陽春庵居士	同町秦宗寺
書	福島柳圃墓	名譽字子直稱十次郎 明治二十二己丑年十月廿二日歿年七十	同　寺
音曲	都在中墓	音曲師也 明治五壬申年三月十一日歿法名都英巽中信士	同　寺
俳優	坂東秀調墓	稱由次郎 明治三十四辛丑年十月廿九日歿法名嶺東院秀山巽調居士	同町曹洞宗龍谷寺
同	二代小佐川常世墓	俳號巨撰初代常世門人初名小佐川七藏 文化五戊辰年八月十六日歿年五十六	下谷町一丁目本光寺
踊師	初代水木歌仙墓	踊師祖也水木辰之助門人 安永八己亥年七月二十日歿年七十	同常在寺
同	二代同墓	初代養女也 文化十三丙子年十二月廿七日歿	同　寺
同	三代同墓	二代養女也名久米 明治六癸酉年七月十五日歿年七十一	同　寺
俳優	水木竹十郎墓	俳號花艷 享保六乙未年九月十七日歿年四十八	同　寺
同	早川新勝墓	號勝保若女形也 寶曆三癸酉年十二月廿七日歿法號蕣妙香仙	同　寺
同	元祖中村仲藏墓	俳號秀鶴二代目中村傳九郎門弟 寬政二庚戌年四月廿三日歿年五十五	同　寺
書	尾形乾山墓	名深省號尙古 寬保三癸亥年六月二日歿年八十一	下谷善養寺町善養寺
書	石川柏山墓	通稱勘助勢州人佐々木志津麿門人 享保十七壬子年十月十七日歿年六十八法號觀喜院悟峰常徹居士	同　寺
梵學	行知阿闍梨墓	淺草福井町銀杏八幡社僧也 天保十二辛丑年三月十三日歿	下谷北稻荷町龍谷寺

俠客	新門辰五郎墓	住淺草寺新門 明治八乙亥年九月十七日歿年七十八法號德廣院正譽眞覺居士	同町西蓮寺
和歌	柳瀨美仲墓	名方塾字美仲遠州濱松人 元文五庚申年五月十七日歿年三十六	下谷茅町教證寺
名士	川路聖謨墓	稱左衛門尉仕德川幕府 明治元戊辰年三月十五日自盡年七十二法號誠恪院殿嘉利明弼大居士	下谷池端七軒町大正寺
醫	前野蘭化墓	名清熹字子悅通稱良澤仕中津侯 享和三癸亥年十月十七日歿年八十一法號樂山堂蘭化天風居士	同町慶安寺
和歌	啜松齋祐之墓	寬保二壬戌年十二月四日歿	同寺
國學	北村季吟墓	近江北村人通稱初久號拾穗軒 寶永二壬申年六月十五日歿年八十八	同町正慶寺
同	同湖春墓	季吟長子號花果院法印 元祿十丁丑年五月十五日歿年五十餘	同寺
儒	宮田迂齋墓	名明字子亮稱宇右衛門大和人仕本多侯太宰春臺門人 天明三癸卯年十二月二十七日歿年六十六	同寺
國學	沼田順義墓	字道意號樂水堂上野人 嘉永二己酉年十二月十七日歿年五十八	同寺
畫	羽川珍重墓	本姓眞中通稱太田辨五郎鳥居清信門人武州埼玉郡人 寶曆四甲戌年七月二十二日歿年七十六法號三同宣觀居士	同町東淵寺
書	樋口逸齋墓	名觀之字子順稱昌之助 明治十丁丑年四月廿一日歿年六十三法號觀之院釋子順居士	同町忠綱宗
奇人	岡田樗軒墓	江都名家墓所一覽著者也	同町宗賢寺
俳諧	老鶯巢宜麥墓	通稱川治彌三郎 文政十一戊子年十二月廿二日歿年七十八	同仲町福成寺
畫	寺澤友齋墓	名政長通稱友太夫 元文六辛酉年正月二十四日歿	下谷上車坂町大久寺
同	石川梧堂墓	名總明字錫我 嘉永五壬子年正月四日歿年四十九	同寺
俳諧、畫	夏目成美墓	名包嘉字萬齡通稱井筒屋八右衛門白雄門人 文化十三丙子年十一月十九日歿年六十四法號等覺院成美日濟	下谷下車坂町蓮華寺
故實、國學	山本清溪墓	名正臣字欽若叙從四位下任近江守 文政六癸未年九月十四日歿年七十	同寺
畫	井川雪下園墓	本姓橘名貫字君錫稱源兵衛阿波德島人 文化二乙丑年十二月廿五日歿	下谷萬年町二丁目長光寺
儒	佐久間熊水墓	名欽字子文稱英二 文化十四癸卯年十月廿五日歿年六十七	下谷豐住町養玉院
戲作	二世爲永春水墓	染崎氏名延房初代狂訓亭門人 明治十九丙戌年九月廿七日歿年六十四法號慈門院圓理連證居士	同院
儒	諸葛琴臺墓	名鑫字君則下野人 文化四丁卯年十一月十七日歿年六十七	同院
同	同中如墓	名武字興卿稱尙一郎 天保十一庚子年九月十八日歿年三十七	同院
同	同歸春墓	名晃字君韜下野人號良新 弘化四丁未年八月十日歿年六十五	同院

書	伊藤益道墓	字子行號華岡稱善藏伊勢人 安永五丙申年十一月廿九日歿年六十八	同院
幇間	交五町墓	號娛遊俗稱磯八吉原幇間男藝者始也 寬政七乙卯年四月二日歿年五十法名高顯院名譽壽樂五町居士	下谷入谷町英信寺
醫	深井玄齡墓	號鶴汀遠州掛川人 元治元甲子年六月十三日歿法號弘濟院壽山彥齡居士	同寺
蒔繪	坂內寬哉墓	蒔繪妙手也 天保六乙未年四月廿日歿年六十九	同町正洞院
小說	萬亭應賀墓	服部氏通稱幸三郎 明治廿三庚寅年八月卅日歿年七十二	同町良感寺
俳優	元祖中島勘左衛門墓	中島家祖俳名重師又是少 享保元丙申年四月廿一日歿年五十五	同町感應寺
畫	柳川重信墓	姓鈴木號雪斗通稱重兵衛 天保三壬辰年閏十一月二十八日歿年四十六	同町宗慶寺
儒	和田讓作墓	名典章字子弘號蹊齋仙臺人龜田鵬齋門人 嘉永二己酉年十一月十日歿	同町長松寺
同	添川廉齋墓	通稱寬會津人 安政六己未年六月廿六日歿	同町正覺寺
畫	月岡雪齋墓	叙法眼 天保十己亥年二月朔日歿	下谷龍泉寺町龍泉寺
俳諧	半青居新甫墓	元治元甲子年十一月十七日歿	同町西德寺
同	鷲屋菊雄墓	號樹園 明治十七甲申年二月十日歿年六十八法號釋菊雄信士	同寺
同	其方庵西瓜墓	天保三壬辰年十月九日歿 法號其方西瓜居士	同町大音寺
相撲	力士濱吉墓	安政二乙卯年十二月十二日歿 法名壽仙院央垢清淨居士	同町龍泉寺
俳諧	吳山堂玉成墓	通稱安川平左衛門武州千住人 明治三十一戊戌年五月十九日歿	同町正燈寺
俠客	吉田文魚墓	通稱大和屋與兵衛所謂十八大通首長也 寬政十二庚申年四月十九日歿年六十八	同町長國寺
金工	濱野政隨墓	通稱太郎兵衛利壽門人 明和六己丑年十月廿六日歿年七十四法號秋峰寺政隨延應居士	下谷金杉下町壽永寺
幇間	菅野光八墓	吉原幇間也 明治三十七申辰年一月十八日歿年七十法名一譽菅柳思道善士	同上町萬德寺
本草	阿部將翁墓	名輝任字丹山稱友之進盛岡人 寶曆三癸酉年正月廿八日歿年百四	下谷三輪町梅林寺
同	同泰任墓	文政六癸未年二月二日歿	同寺
同	同櫟齋墓	名喜任字亨巴稱友之進 明治三庚午年十月廿日歿年六十六	同寺
有司	三間四郎左衛門墓	文政十丁亥年二月廿三日歿 法號得是院殿眞淨日法居士	下谷上根岸町要傳寺
博覽	村田了阿墓	名直溫字高風稱小左衛門 天保十四癸卯年十一月十四日歿年七十二	下谷中根岸町西藏院

醫	堀本彝珍墓	字訓王號百納庵 文化二乙丑年二月六日歿年五十三	同 町安樂寺
文學	森田思軒墓	稱文藏 明治三十丁酉年十一月十四日歿年卅七	同 町世尊寺
狂歌	田中道榮墓	通稱太兵衛住神田辨慶橋 文政八乙酉年二月六日歿年八十	同 寺
同	瀧屋清丸墓	長岡氏稱清兵衛住神田小柳町 明治三十丁酉年五月廿三日歿年七十四	下谷龍泉寺町 龍泉寺
茶	清水玄昌墓	號龍麟齋竹村鶯庵門人 天明四甲辰年四月十六日歿	同 寺
儒	八田華陽墓	名縣字清民稱泰次郎三河人 文化十四丁丑年八月廿九日歿年五十六法名華陽道玄居士	下谷南稻荷町 唯念寺
狂歌	五葉園松陰墓	五清園方慈子 明治二十七甲午年七月十八日歿年七十一	同 寺
相撲	境川浪右衛門墓	明治二十丁亥年九月十六日歿 法名廣證院釋道淳信士	下谷北稻荷町 開明寺
俳優	山下輕藻墓	享保三戊戌年十二月八日歿 年三十三	同 町廣德寺
書	松本洗耳墓	富岡永洗門人群馬縣人 明治三十九丙午年五月廿八日歿年三十八	下谷池端七軒町 覺性寺
同	鳥居清貞墓	五代目鳥居清滿門人 明治三十四辛丑年二月十四日歿年五十八	同 町妙顯寺
優俳	久松友右衛門墓	享保八癸卯年二月廿五日歿	下谷町一丁目 常在寺
柔術	瀧野遊軒墓	名貞高稱專右衛門平安人 寶曆十二壬午年六月十八日歿年六十八	下谷入谷町 全德寺
天文學	中西子彦墓	名邦孚稱金吾號觀水江戸人 明治二己巳年正月十日歿年六十二	同 町隨德寺
儒	西山健甫墓	名順泰稱健助對馬侯儒官也 元祿元戊辰年十月三日歿年三十一	養玉院
同	伊藤恒庵墓	名履仁字天爵 文化七庚午年某月某日歿	下谷金杉上町 了源院
同	太宰春臺墓	名純字德夫稱彌左衛門信州飯田人徂徠門人 延享四丁卯年五月晦日歿年六十八	谷中坂町 天眼寺
同	東條琴臺墓	名耕字子藏稱文左衛門 明治十一戊寅年九月廿七日歿年八十四	同 寺
書	森尹祥墓	通稱傳右衛門號源流 寬政十戊午年三月十二日歿年七十一法號瑤光院尹祥日秀信士	同 町本壽寺
長唄	三代杵屋六三郎墓	號六翁杵屋正次郎門人 安政二乙卯年十一月晦日歿年七十八	同 寺
慷慨	蒲生君平墓	名秀實字君平稱伊三郎號修靜庵宇都宮人 文化十癸酉年七月五日歿年四十六	同 町臨江寺
鑑定	古筆了仲墓	姓守村名守直稱勘兵衛 元文元丙辰年八月三十日歿年八十一法號賢叟了仲居士	同 寺
同	同了雪墓	了佐五男名重光稱次右衛門能俳諧 延寶三乙卯年閏四月十四日歿年六十四法號無名無心菴古雲道樸居士	同 寺

儒	木村蓬萊墓	勝山侯儒官也名貞寶字君恕稱勝吉尾張人 明和二乙酉年十月廿五日歿年五十一	同 寺
書	藤堂巴陵墓	名良熙稱勝右衛門仕伊賀侯 寬政九丁巳年十月廿九日歿年七十九	同 寺
同	同梅花墓	巴陵男名良道字子基 弘化元甲辰年三月七日歿年七十六	同 寺
同	同凌雲墓	名良驥字千里梅花男 明治十九丙戌年十一月三十日歿年七十八	同 寺
官	井上毅墓	前文部大臣 明治二十八年	同 町玉林寺
儒	菅野兼山墓	名彭通稱彥兵衛字直養武州埼玉郡人 享保四己亥年五月十七日歿年六十八	同 寺
同	中村蘭林墓	名明遠字子晦稱深藏室鳩巢門人 寶曆十一辛巳年九月三日歿年六十五	同 寺
同	衣笠一淳墓	通稱六郎左衛門號南溪伊勢松坂人 延享三丙寅年八月廿二日歿年六十七	同 寺
同	多田東溪墓	名儀字維則稱儀八郎京都人三宅尚齋門人 明和元戊辰年八月十六日歿年六十三	同 寺
同	大塚昌平墓	名昭明字子融伊勢人 文化二乙丑年八月廿九日歿	同 寺
同	菅野綸齋墓	字子和稱勘平三宅尚齋門人 寬政十一己未年七月五日歿	同 寺
國學	間宮永好墓	高田與清門人水戸人 明治五壬申年正月三日歿法號永蓮院奇德有道居士	同 寺
歌文	同八十子墓	永好妻 明治廿四辛卯年二月十九日歿年六十九	同 寺
書	狩野永秀墓	名知信號尚玄齋 明治十七甲申年十月十二日歿年七十六	同 町信行寺
鑑定	佐藤榮中墓	明治廿三庚寅年十月卅一日歿	同 町本光寺
淨瑠璃	鶴澤蟻鳳墓	通稱大阪屋小三郎晩年改三代目竹本播磨太夫 安政元甲寅年十月十日歿年八十四	同 町佛心寺
儒	太田錦城墓	名元貞字公幹稱才佐加州大聖寺人 文政八乙酉年四月廿三日歿年六十一	同 町一乘寺
書	鈴木鷲湖墓	名雄字飛雄稱漸造常州人谷文晁門人 明治三庚午年四月廿三日歿年五十三法號寂照院鷲湖日悠居士	同 寺
儒	赤井東海墓	名繩字士巽稱嚴三讚州高松人 文久二壬戌年十一月十四日歿年七十六	同 町妙福寺
長唄	湖出金四郎墓	名人也 元祿年中歿	同 寺
同	同市十郎墓	金四郎男 寬政十二庚申年九月十二日歿	同 寺
俳優	鳴海五郎四郎墓	俳號八丁 寶曆八戊寅年十一月十八日歿法名智照院道本日諦	同 町信行寺
同	上村花右衛門墓	寶永六己丑年正月廿日歿法名通照院道入日念	同 寺

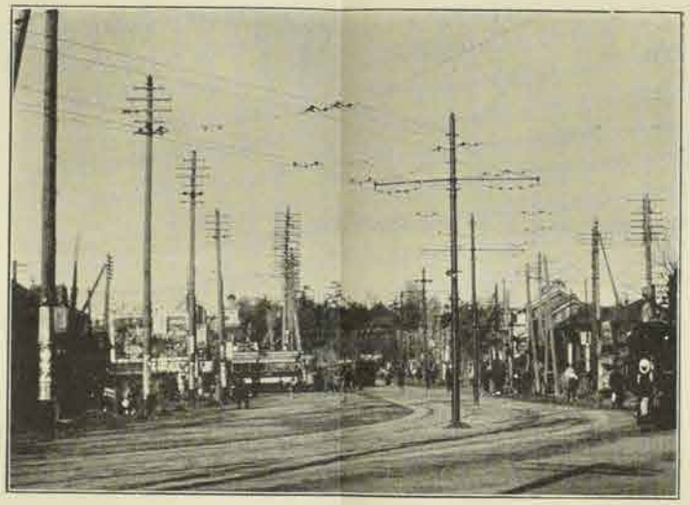
同	左近伊兵衛墓	正德五乙未年十一月廿三日法名實相院日了	同寺
同	鎌倉長九郎墓	享保三戊戌年十一月廿一日歿法名實教院永延日感	同寺
躍	活惚初坊主墓	通稱金子初五郎活惚中興之祖也 明治二十四辛卯年二月八日歿法名寶樹遊樂信士	同寺
畫	高久靄崖墓	名徵字遠々稱秋輔 天保十四癸卯年四月十四日歿年四十八法號疎林靄崖居士	谷中三崎町 天龍院
同	同隆古墓	稱斧四郎 安政六己未年八月廿六日歿年五十九法號興道隆古居士	同院
詩書	神波即山墓	明治廿四年辛卯年一月二日歿	同院
狂歌	芍藥亭長根墓	本阿彌光悅七世孫姓菅原名長根稱次郎右衛門 弘化二乙巳年二月十日歿	同町妙法寺
儒	井戸甘谷墓	名方愨稱勘右衛門室鳩巢門人 寬延三庚午年七月十七日歿	同町正運寺
落語	三遊亭圓生墓	立岩氏稱勝次郎圓朝門弟 明治三十七甲辰年十二月廿七日歿年五十九法號法心院得脫日勝居士	同寺
俳偕	石川舊竹墓	大阪子日庵竹齋門人 明治十三庚辰年七月廿八日歿年六十一	同町法受寺
俳優	元祖吾妻東藏墓	俳名園枝家號吾妻屋狂言作者中村清七子 享保元丙申年九月五日歿年五十二法名學陽善知	同町妙圓寺中一乘院
同	二代同藤藏墓	東藏子俳名園枝 安永四乙未年四月十一日歿年五十三	同院
同	中村峰之助墓	若女形也正德五乙未年七月四日歿年三十九	同院
詩	大沼枕山墓	法名圓心院宗壽日量 名厚字子壽江戸人 明治二十四年辛卯年十月一日歿年七十四	谷中三崎南町 瑞輪寺
俳優	阪田半五郎墓	俳號杉磯二代目坂田藤十郎門弟 享保二十乙卯年四月廿五日歿年五十三法名丹信院日亮	同寺
同	荻野伊三郎墓	延享五戊辰年二月六日歿法號觀聽院信乘日敬	同寺
儒	平田公愷墓	字新民稱新助山本北山門人 文政十二己丑年正月九日歿年七十三	同寺
狂言作者	初代松島半二墓	號調布元祖左交門人 文政十巳丑年四月十四日歿年五十七	同寺
狂歌	守屋仙庵墓	天保九戊戌年七月三日歿	同寺
俳優	嵐和歌野墓	享保十三戊申年五月廿日歿法名 喜見日顏	同寺 中玄妙院
同	佐野川市松墓	俳號盛府元祖佐野川萬菊門弟屋號新萬屋伏見人 寶曆十二年壬午年十二月五日歿年四十一法號盛府院普聞日信	同院
和歌	北村正立墓	北村李吟次男稱源之丞京都人 元祿十五壬午年閏八月廿一日歿年五十一	同院
俳優	片山小左衛門墓	享保十三戊申年六月廿日歿年三十九法號本立院道源	同寺 中是立坊

常樂院（六阿彌陀堂）

三橋

摩利支天堂

北大門町池之端通

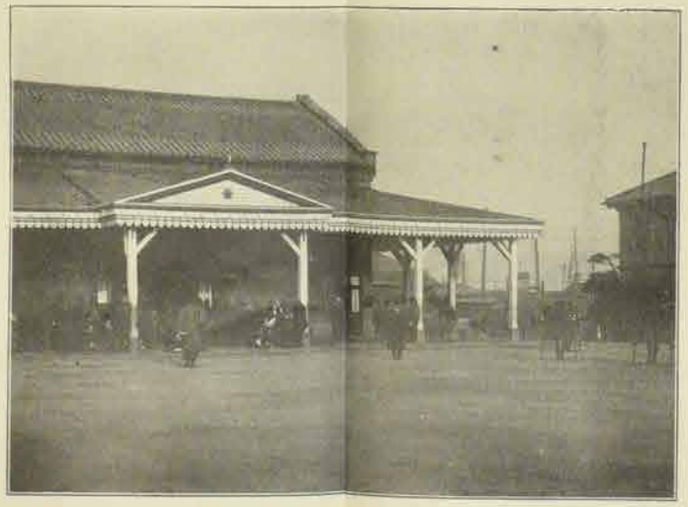


上野廣小路

北大門町通（商品陳列場前）

（坪川辰雄撮影）

山下町通



上野停車場

上野公園入口（三橋ヨリ谷中ヘノ通路）

畫	河鍋曉齋墓	通稱周三郎土井侯藩士 明治二十二巳丑年四月廿六日歿年五十九	同寺中正行院
武士	清水一角墓	元祿十四辛巳年十二月十四日歿	同町瑞輪寺
戲作	假名垣魯文墓	花笠文京門人 明治二十五壬辰年十一月八日歿年六十五	同町永久寺
畫	相澤石湖墓	名萬字文英 弘化四丁未年十二月廿九日歿年四十二法名淨眼院石湖居士	同町本通寺
儒	日尾荊山墓	名瑜字德光稱宗右衛門龜田鵬齋門人 安政六巳未年八月十二日歿年七十二	同寺
俳諧	竹內玄々一墓	播州高野人 文化元甲子年八月廿六日歿年六十三法號安樂院理教居士	同寺長久院
詩	有田東原墓	名賢佐字孟輔稱次郎兵衛 文政十二巳丑年六月十一日歿年五十八	同院
醫	鹽田松園墓	本姓宮河氏名泰字順庵 明治四辛未年二月七日歿年六十七法號昭光院殿松園壽僊大居士	同院
俳優	西國兵助墓	享保十二乙巳年六月十日歿	同院
醫	伊東玄朴墓	名淵號長翁 明治四辛未年正月二日歿年七十二法號長春院樂翁玄朴法印	谷中三崎町天龍院
畫	高林芳谷墓	女畫家名轍東都人 明治二十七年甲午年五月六日歿年五十五	谷中三崎南町瑞林寺中情延寺
同	細田榮之墓	名時富稱彌三郎 文政十二巳丑年七月二日歿法號廣說院殿皆信榮之日隨居士	同町蓮華寺
書	三國筆海堂墓	眞木氏名正心字眞幸稱素助仕水戶侯延寶二甲寅年十月廿四日歿 年六十一法號朝宗院德輝道哲居士	同町自性院
醫	森庸軒墓	名性號清江 文政十丁亥年四月五歿	同院
儒	松井渙齋墓	名濤字秋水稱健藏 安政元甲寅年二月十三日歿年四十九	同町龍谷寺
茶	川上不白墓	千恕齋門人紀州新宮人 文化六乙未年十月四日歿年八十九法號孤峰不白日祥居士	谷中三崎北町安立寺
同	同渭白墓	安政四丁巳年九月晦日歿年六十九	同寺
和歌	村山素行墓	名德之號寶處庵加藤千陰門人 天保六年十一月十六日歿年六十三法號法處庵素行日談禪定門	同寺
印刻	富山景純墓	稱彥左衛門 寬政十一巳未年十一月十六日歿	同寺
儒	大串雪蘭墓	名元善字子平稱平五郎仕水戶侯 元祿九丙子年十二月十二日歿年六十九	同町養泉寺
俳諧	志邑佳風墓	嵐雲門人 享保二丁酉年十二月十四日歿五十一	同寺
相撲	朝日嶽鶴之助墓	出羽人 明治十丁丑四月四日歿年四十五法號旭崇院泰嶽天瑞居士	同町長安寺
畫	狩野芳厓墓	明治廿一戊子年十一月五日歿年六十一	同寺

落語	桂文樂墓	桂文治門弟 明治廿七甲午年一月廿七日歿年五十七	同町觀音寺
講談	桃川如燕墓	杉浦氏稱要助 明治三十一戊戌年二月廿八日歿年六十七	同寺
醫	尾臺士超墓	名逸字士超稱之逸 明治三庚午年十二月晦日歿年七十二	同寺
俳優	中村吉兵衛墓	俳名一其異名二朱判吉兵衛道外方上手也 明和二乙酉年八月十七日歿年八十二法號深入院宗禪一其日定	同町常在寺
同	同吉藏墓	吉兵衛子俳名其次女形也 元文四巳未年四月廿四日歿年三十九法名光岸院圓玉	同寺
俳諧	八朶園寥松墓	天保三壬辰年閏十一月十七日歿年七十二 法號八朶園寥松日鶯居士	同寺
俳優	山中平九郎墓	俳號仙家江戸公家懇元祖也 享保十九甲寅年四月十四日歿年八十三法號冷山院壽仙	同寺
醫	奈須玄竹墓	名恒昌號久昌院仕德川幕府 延寶七巳未年某月某日歿	谷中三崎南町感應寺
畫	狩野安信墓	稱右京孝信三男 貞享二乙丑年九月四日歿年七十三	同寺
幇間	櫻川善六墓	西田氏稱音次郎 明治三十七甲辰年二月八日歿年六十四	同寺
慷慨	菊池敎中墓	名敎中字介石稱介司號淡如下野人 文久二壬戌年八月八日歿年三十五	同町天龍院
書	山岡鐵舟墓	名高步字曠野稱鐵太郎別子爵 明治廿一戊子年七月十九日歿年五十三法號全生庵殿鐵舟高步大居士	谷中初音町一丁目全生庵
詩	棚橋松林墓	名嘉忠字伯貫彌大作美濃人 明治二十六年癸巳年五月廿五日歿年六十七	同庵
尺八	原如童墓	名信孝常陸人 明治二十五年壬辰年八月卅日歿年六十	同庵
落語	三遊亭圓朝墓	通稱出淵治郎吉 明治三十三庚子年八月十一日歿年六十二法名三遊圓朝無舌居士	同庵
有司	萩原近江守墓	名重秀稱彥次郎仕幕府 正德三癸巳年十月廿五日歿年五十六	同三丁目長明寺
狂歌	初代筑波庵墓	通稱君塚伊兵衛號紫陰 天保三壬辰年十月三日歿	同寺
同	二代同墓	初代子 明治十九年丙戌年三月五日歿年六十三	同寺
儒	友野霞舟墓	名渙字子玉通稱雄助 嘉永二巳酉年四月十一日歿年五十九	同四丁目宗林寺
畫	海野蠖齋墓	名璞字君玉備中人 天保四年五月廿七日歿年八十六法號也足院蠖翁一如居士	同寺
狂歌	花江戸住墓	通稱山口政吉 文化二乙丑年六月某日歿	同寺
儒	首藤水晶墓	名元昺字仲虎稱文三郎美濃人 安永元壬辰年八月廿二日歿	同三丁目龍泉寺
俳諧	慶紀逸墓	稻津祇空門人江戸人 寶曆十一辛巳年五月八日歿年六十八	同寺

國學	辻守靜墓	通稱六郎左衛門 明治六癸酉年九月二日歿年七十餘法號六牙院薩法晴日居士	同寺
和歌	井上文雄墓	名文雄字元貞號歌堂岸本豐流門人 明治四辛未年十一月八日歿年七十六法號文雄院歌先明道居士	谷中坂町玉林寺
同	草野御牧墓	井上文雄門人 明治元戊辰年十二月十日歿	同寺
俳優	二代澤村惣十郎墓	俳號遙波元祖訥子門弟 寬延元戊辰年閏十一月廿五日歿法名常信院宗澤日恩	谷中町大行寺
儒	古市南軒墓	名剛字子强稱東之進 享保七壬寅年八月六日歿年六十二	同寺
醫	吉田林庵墓	名宗山水府侍醫也 享保六辛丑年三月四日歿年八十七	同町大雄寺
儒醫	同愼齋墓	名訥言字子敏仕水府 享保十乙巳年九月十三日歿年四十九	同寺
醫	同篁暾墓	名漢官字學生稱垣藏仕水府 寬政十戊午年九月朔日歿年六十八	同寺
俳諧	豐田荷風墓	才鷺門人 享保十二丁未年十二月十四日歿年四十九	同寺
儒	赤尾秀實墓	字子毅號鷺洲 安永三甲午年五月十二日歿	同町妙雲寺
畫	山形素眞墓	號搖月庵 文久二壬戌年六月廿五日歿年四十五法號搖月院素眞定慧居士	下谷北稻荷町龍谷寺
和歌	儘田柳軒墓	名重明稱主水上州松井田人 寬政七乙卯年八月七日歿年七十三	谷中天王寺町了院寺
畫	狩野晏川墓	名貴信號皆春稱狩野良信男 明治廿五壬辰年十一月廿日歿年八十四	同寺
俳優	三代中村仲藏墓	俳號秀鵬五代目中村傳九郎門人 明治十九丙戌年十二月廿四日歿年七十八	同町天王寺
醫	戸塚文海墓	海軍々醫總監從三位勳二等 明治三十四辛丑年九月九日歿年六十七	同寺
儒	渥美坦庵墓	名正幹字貞卿藤森弘庵門人 明治三十二巳亥年七月三日歿年六十五	同寺
洋學	箕作秋坪墓	東京敎育博物館長兼東京圖書館長 明治十九丙戌年十二月三日歿年六十二	同寺
長唄	十一代杵屋勘五郎墓	號照海 明治十丁丑年八月七日歿年五十五	同寺
儒	島田重禮墓	字敬甫號篁村武州人正四位勳二等文學博士 明治三十一戊戌年八月廿七日歿年六十一	同寺
篆刻	濱村大懈墓	稱藏六 明治二十八乙未年二月某日歿	同寺
儒	鷲津毅堂墓	藤森弘庵門人 明治十五壬午年十月五日歿年五十八	同寺
詩書	垣內海莊墓	名保定字子圃稱孫左衛門 明治十四辛巳年二月十八日歿	同寺
畫	川崎秋錦墓	名覲字織江 明治十二巳卯年十二月卅一日歿年六十四法號寶山秋錦居士	同寺

俳歌　大久保恪堂墓　通稱忠保號花壇又誕々　明治十九丙戌年三月五日歿年五十六

儒　小永井小舟墓　名岳字君山稱八郎　明治廿一戊子年十二月十日歿年六十

同　芳野金陵墓　名世育字叔果稱立藏下總人龜田綾瀨門人　明治十一戊寅年六月五日歿年七十七法號文廉院天晁道晃居士

同　同復堂墓　名毅字伯任稱純藏龜田綾瀨門人　弘化二乙巳年三月廿九日歿年十六

同　佐々木琴臺墓　名世元稱源三郎字長卿　寶政十二庚申年八月廿日歿年五十五

詩　關忠藏墓　名敬字弘道　文政十丁亥年十一月廿四日歿年五十一

俳諧　袖庵長橋墓　嘉永六癸丑年五月十七日歿

醫　戶塚靜海墓　名維秦達州掛川人字田川櫻齋門人　明治九丙子年一月廿九日歿年七十八

書　淡島椿岳墓　本姓小林名氏平稱城三號南平堂　明治廿二巳丑年九月廿一日歿年六十七

同　目賀田介庵墓　名字隆字士繼稱帶刀號文村　明治十三庚辰年四月廿七日歿年六十八

書　大島堯田墓　各信字立卿卷菱湖門人　明治十八乙酉年十月某日歿

儒　望月毅軒墓　名綱字孟玉稱萬一郎　明治十一戊寅年九月廿五日歿

書　松岡環翠墓　名光訓稱稱四郎　明治廿丁亥年七月十四日歿年五十八

醫　大野松齋墓　羽州秋田人坪井信道門人　明治廿一戊子年七月十七日歿年七十

書　關雪江墓　名思明字鐵卿　明治四辛未年某月某日歿

同　卷菱湖墓　名大任字致遠稱右內新潟人　天保十四癸卯年四月七日歿年六十七

書　淺野梅堂墓　名長祥字胤卿仕幕府祿從五位下任中務少輔　明治十三庚辰年二月十七日歿年六十五法號文莊院梅堂歸夢軒居士

儒　渡邊墨農墓　名燮字文卿慧巖　嘉永元戊子年五月五日歿

金工　加納夏雄墓　稱治三郎京都人　明治三十一戊戌年二月三日歿年七十二

歌　大畑春國墓　明治八乙亥年十二月十七日歿年五十八

俳諧　大島鳳州墓　號七世雪中庵　明治七甲戌年九月九日歿年六十一

書　藤田吳江墓　名憲富山侯儒員也　明治十八乙酉年五月廿二日歿年五十九

詩　德山樗堂墓　明治九丙子年六月六日歿

俳諧　自然堂鳳朗墓　本姓嚴島名義長稱源彌熊本人　弘化二乙巳年十一月廿八日歿年八十四

儒　鹽谷宕陰墓　名世弘字毅侯　慶應三丁卯年八月廿八日歿年五十九

同　同簣山墓　宕陰弟名誠字誠元

俳諧　松倉嵐蘭墓　稱甚右衛門芭蕉門人　元祿六癸酉年八月廿七日歿年四十六

儒　根岸長兵衛墓　名直利號斷軒　正德四甲午年三月卅日歿

俳諧　同友我墓　名眞英稱權兵衛　享保十四巳酉年九月廿五日歿

醫　河村滄洲墓　名巷晟字子果號元東　寶政四壬子年五月十三日歿

儒　井上南臺墓　名淮字子存稱新藏常陸人井金峨義子　寶政十戊午年十月十四日歿年五十餘

慶慨　田每野秀顯墓　三春藩士　明治十六癸未年十一月廿九日歿年卅四法號義岳秀顯居士

落語　三遊亭圓遊墓　本名竹內金太郎三遊亭圓朝門人　明治四十丁未年十一月廿六日歿年五十九唱行院圓遊日悟居士

詩　菊池琴溪墓　名保定字士固　明治十四辛乙年一月十六日歿年八十三

儒　松本萬年墓　名政秀字子邦寺門靜軒門人　明治十三庚辰年九月十八日歿年六十六

慷慨　小山春山墓　下野國眞岡人名朝字遵士　明治廿四辛卯年一月廿一日歿年六十五

儒　小野梓墓　號東洋稱箕吉土州人　明治十九丙戌年一月十一日歿法號願入院釋東洋居士

蒔繪　小川松民墓　通稱繁次郎　明治二十四辛卯年五月卅日歿年四十八

儒　阪谷朗廬墓　名素字子絢稱希八郎備中人　明治十四辛巳年一月十五日歿年六十

圍碁　中川龜三郎墓　關碁八段名人住神田五軒町　明治卅八癸卯年十月十二日歿年六十七

判事　玉野世履墓　長州人　明治十九丙戌年八月九日歿

儒　萩原西疇墓　名祐字好問稱英助　明治三十一戊戌年二月十九日歿年七十

書　佐竹永海墓　字周村叙法眼奧州人谷文晁門人　明治七甲戌年十二月廿四日歿年七十二

故典　豐田長敦墓　稱重三郎號縮齋　明治九丙子年一月三日歿年七十四

國學　久保季茲墓　明治十九丙戌年三月五日歿

書　堀田仙庵墓　名三寅稱信輔　明治二十丁亥年一月廿九日歿

儒書	小橋橘陰墓	稱多助讃岐人 明治十二己卯年二月十九日歿年五十六	同 地
詩書	齋藤畸庵墓	甲府柳町某樓主人也 明治十六癸未年五月十四日歿年七十九	同 地
國學	常世長胤墓	補中敎正 明治十九丙戌年三月十九日歿	同 地
書	高齋單山墓	名有常字恒直稱精一 明治廿三庚寅年六月十三日歿年七十三	同 地
同	茅野雪庵墓	卷菱湖門人 明治廿丁亥年七月十二日歿	同 地
和歌	間島冬道墓	通稱萬次郎尾州藩士 明治廿三庚寅年九月卅日歿	同 地
詩	關根痴堂墓	法名心月院樂與痴堂居士 明治廿二己丑年九月廿一日歿	同 地
和歌	宇津木貞夫墓	明治廿四辛卯年二月廿日歿	同 地
同	佐々木弘綱墓	通稱重藏號竹柏園伊勢人足代弘訓門人 明治廿四辛卯年六月廿五日歿年六十四	同 地
神官	平山省齋墓	名敬忠字安民號素山叙從六位補大敎正 明治廿三己丑年五月廿二日歿年七十八	同 地
國學	小中村清矩墓	江戸人號陽春廬 明治廿八乙未年十月九日歿	同 地
俳優	市川權十郎墓	俳名紲江本名岡田菊三郎 明治卅九丙午年年三月廿七日歿年五十七	同 地
儒	內藤耻叟墓	水戸人號碧海 明治三十六癸卯年六月七日歿年七十七	同 地
俳諧	不秋庵青柯墓	竹內氏 明治十二己卯年三月八日歿年七十七	同 地
文學	岡本武雄墓	桑名藩士 明治廿六癸巳年十一月廿二日歿	同 地
書	吉澤遠齋墓	名乾通稱乾三福島藩士 明治十丁丑年六月廿日歿	同 地
儒	關藤藤陰墓	名成章字君達稱文兵衞備中人 明治九丙子年十二月廿九日歿年七十	同 地
書	川上冬涯墓	名寬字子栗稱萬之丞 明治十四辛巳年五月三日歿年五十三	同 地
刺客	島田一郎墓	石川縣士族也 明治十一戊寅年五月廿七日刑死	同 地
同	長連豪墓	同上	同 地
同	脇田巧一墓	同上	同 地
同	杉本乙菊墓	同上	同 地
同	杉村文一墓	同上	同 地

同	淺井壽德墓	鳥取縣士族也 明治十一戊寅年七月廿七日刑死	同 地
同	西野文太郎墓	明治廿一戊子年二月十一日死	同 地
醫	今村亮墓	字武卿號了庵 明治二十三庚寅年一月十三月歿年七十七	同 地
詩	青木可笑墓	字孟純號樹堂 明治十四辛巳年四月十七日歿年五十七	同 地
陶宮	佐野量丸墓	陶宮術主唱者也開祖横山丸三翁高弟 明治廿一戊子年十月八日歿年八十二	同 地
同	新家春三墓	陶宮術師也開祖横山丸三翁門人 明治廿三庚寅年六月廿七日歿年七十七	同 地
刺客	川本杜太郎墓	僞名豐原邦之助本名惟一越後人 文久二壬戌年正月十五日歿年廿二	同 地
本草	伊藤圭介墓	號錦窠名古屋人列男爵 明治卅四年辛丑年一月廿三日歿年九十九	同 地
狂歌	岡野伊平墓	號五世薙草庵 明治十九丙戌年六月六日歿	同 地
園藝	今井兼角墓	薩摩人住麻布西町 明治廿七甲午年六月十五日歿	同 地
藏作書	宮城玄魚墓	通稱彌三郎號玉梓子又梅素 明治十三庚辰年二月七日歿年六十四	同 地
書	有阪菱灣墓	名銈吉 明治十四辰巳年七月廿三日歿	同 地
俳諧	月本素水墓	通稱小野又左エ門 明治三十丁酉年十二月廿一日歿年八十五	同 地
圍碁	都筑仙芝墓	進五段 明治三十丁酉年十月十三日歿	同 地
神官	東宮千別墓	名高則常陸人補權大敎正 明治卅丁酉年七月二日歿年六十五	同 地
書畫	衣笠豪谷墓	名縉侯字紳卿號天柱山人備中人 明治三十丁酉年四月廿六日歿年四十八	同 地
國學	横山由清墓	横山桂子義子 明治十二己卯年十二月二日歿	同 地
畫	渡邊小華墓	名諧字韶卿稱㙛治華山二男 明治廿丁亥年十二月廿九日歿年五十三	同 地
同	春山南溟墓	明治十戊寅年十二月十二日歿年八十四	同 地
詩	田口柳所墓	俳諧狂歌名興治字子朗 明治廿五年壬辰年六月廿七日歿年五十七	同 地
慷慨	大橋順藏墓	名正順字周道號訥庵 文久二壬戌年七月十二日歿年四十七	同 地
書	卷菱潭墓	明治十九丙戌年二月廿八日歿年四十一	同 地
神學	安東眞鐵墓	正鐵父 文政十丁亥年七月十四日歿年七十五	同 地

同	井上正鐵墓	神道禊教開祖 嘉永二己酉年二月十八日歿年六十	谷中三崎町禪宗天龍院
寫眞	鵜飼玉川墓	本邦寫眞術祖通稱三二 明治二十丁丑年五月十二日歿年八十一 法號玉川寶樹清音居士	谷中天王寺町 天王寺
畫	菊池容齋墓	名武保稱量平 明治十一戊寅年六月十六日歿年九十一	谷中天王寺町 天王寺
醫	淺田宗伯墓	信州人號栗園漢醫家泰斗也叙從四位 明治三十三年庚子年七月十六日歿	谷中墓地
毒婦	高橋阿傳墓	上洲沼田產也 明治十二己卯年一月卅一日歿	谷中墓地
同	佐藤舜海墓	名尚中字泰鄕佐賀人 明治十五壬午年七月十五日歿年五十六	同寺
儒	中村敬宇墓	名正直正四位文學博士 明治廿四年辛卯年六月七日歿年六十	同寺
和歌	中島歌子墓	明治三十六癸卯年一月卅日歿年六十	同地
畫	酒卷釣翁墓	安政二乙卯年十二月九日歿年六十七	谷中三崎町禪宗天龍院
俳諧歌	北庭筑波墓	通稱井伊孝之助 明治十丁亥年十二月十日歿年四十六	谷中天王寺町 天王寺
狂	馬場辰猪墓	明治廿一戊子年十二月三日歿年三十九	谷中墓地
政事	川上花顛墓	名謙男谷祐齋門人 明治二己巳年十月七日歿年六十六	谷中天王寺町 天王寺
書	芳野櫻蔭墓	名世行字實甫稱新一郎 明治四辛未年九月十日歿年廿九	同寺
儒	江木鰐水墓	名歌字晉才稱繁太郎安藝人 明治十四辰巳年十月八日歿年七十二	同寺
同	河野顯三墓	名通稱字壬威下野人 文久二壬戌年正月十五日歿	谷中墓地
刺客			

下谷區の部終

編輯主任 山下重民
助修 齋木宗鎌
圖畫擔任 山本松谷
寫眞擔任 押川辰雄

此廣告を見て御取引の御方は「風俗畫報」廣告に據る旨御附記を乞ふ

原本（松平樂翁公著○谷文晁畫）八十五卷
縮寫 ◎集古十種 解說附 合卷全八冊

本書ハ原圖ヲ縮寫シ更ニ木版ニ新刻シタル者ニテ其冊數簡約ニシテ且ツ頗ル明ナリ殊ニ解說ヲ附シタレバ工藝家ハ以テ圖案ノ材料ニ資スベク鑑賞家ハ以テ机上ニ清玩ニ供スベク其他考古家ノ處右缺クベカラザル珍本也

定價 本紙別製極美人 金十八圓 本紙摺 金十五圓 改良雁皮紙摺 金十二圓

第一卷 郵岡良弼君圖說 ▲樂器之部 全一冊 定價 本紙 金一圓 改良雁皮 金一圓六十錢 各郵稅 十錢

第二卷 川崎千虎君圖說 ▲甲冑之部 合本 定價 本紙 金三圓 改良雁皮 金三圓四十錢 各郵稅 金十五錢

第三卷 ▲馬具弓矢之部 全一冊 本紙 金一圓二十錢 改良雁皮 金一圓 各郵稅 金十錢

第四卷 ▲刀劍旌旗之部 全一冊 定價 本紙摺金一圓五十錢 郵稅金十五錢 改良雁皮紙摺金一圓廿錢 郵稅金十錢

第五卷 ▲七組鎧 弘法大師袈裟 之部 全一冊 定價 本紙摺金二圓 郵稅金十五錢 改良雁皮紙摺金一圓十錢 郵稅金十錢

第六卷 ▲冠額之部 全一冊 定價 本紙摺金一圓五十錢 郵稅金十五錢 改良雁皮紙摺金一圓廿錢 郵稅金十錢

第七卷 合本 ▲物具櫃 牧溪筆玉澗八景 之部 全一冊 定價 本紙紙摺金一圓八十錢 郵稅金十五錢 改良雁皮紙摺金一圓四十錢 郵稅金十錢

第九卷 合本 ▲鐘銘碑銘之部 全一冊 定價 本紙紙摺金二圓 各郵稅 十五錢 改良雁皮紙摺金一圓六十錢

發行所 東京神田通新石町 東陽堂
（振替貯金口座一一九〇六番）

風俗畫報 定期增刊 東京名所圖會

毎月一回十日發行
毎月一回二十五日發行

定價表

	郵稅	一冊	合計
定價	金十五錢	金一錢	金十六錢
一冊	金十五錢	金五錢	金七十六錢
五冊	金一圓三十五錢	金十錢	金一圓四十五錢
十冊	金二圓五十五錢	金二十錢	金二圓七十五錢
二十冊			

注意
但し臨時增刊の爲め定價增加したるときは其の文記載を由乞ふ
◎本誌は前金御注文の外送本せず◎單に風俗畫報のみ又は東京名所圖會のみ御入用の方は御注文の節特に御指定相成度然らざれば風俗畫報及東京名所圖會共送本す◎爲替拂込は神田郵便局に拂込みの事◎郵券代用は必ず一割增にて五厘一錢のみ手に限る

明治二十二年三月一日第一號發行
明治四十一年三月廿五日第三百八十二號發行

著作權所有

發行兼印刷人 吾妻健三郎 東京市神田區淡河臺町十一番地
編輯人 田中市之助 同市下谷區御徒町一丁目五十五番地

發行所 東京市神田區通新石町三番地 東陽堂支店
（電話本局九七〇番）
（郵便振替貯金口座東京一九〇六番）

風俗畫報賣捌所

京橋區尾張町	東海堂	日本橋區住吉町	至誠堂
神田區表神保町	東京堂	大阪東梅田町	盛文館
日本橋區吳服町	合資會社 北隆館	京都寺町二條南	合名會社 芸艸堂
京橋區鐘屋町	良明堂	京都佛光寺通烏丸東入	三共社
本郷區元富士町	盛春堂	高知市帯屋町	澤本副吉
神田區神保町	上田屋書店	名古屋市	淺見文昌堂
本郷區元富士町	田中書店	信濃國上諏訪町	宮坂書店
越後國新潟市	北光社	鹿兒島市仲町	吉田幸兵衛
越後國長岡表四ノ町	目黒十郎	羽後國增田町	東海林書店
越後國新發田	藤治吉	下總國水海道	新々堂

ほしのじんぞうじやこう廣告

貴顯紳士粋士佳人の必用な香料

東京星野の人造麝香

弊舗發賣の人造麝香は他に比類なき純良品にて高尚優美の芳香を放ち方今音く天下に冠たる高評を博したり常に此人造麝香を携帶せば總ての惡臭を防ぎ他人に對し身の省慎となり惡疫の感染を豫防し衛生的夏季最も必用の佳品也

弊舗の人造麝香は香水香油石鹸及化粧品製造業者間に必用なる用料として歡迎せらる近來種々の麁製品あり注意の上御求あれ

香具原料に用る七匁五分入及び一匁入は時價を以て精々勉强す

郵便代用 定價 大瓶六拾九錢 小瓶參拾五錢 一割增し 但し遠送料は不用 新小瓶貳拾錢 試用拾錢

發賣元 東京市日本橋區伊勢町十七番地 日本特約 星野與兵衛

一手販賣 大阪市東區道修町二丁目 關西地方 武田長兵衛

代理店 同市同區道修町堺筋角 小川安兵衛

全國到處の藥店並に小間物店にて賣捌候

登錄商標御注意を乞

てんかんの最新藥

てんかんと云へる病は其病源の解らぬより昔時は不治の病と稱へて一旦是れに罹れる人は自から癈人となりたる如く思ひ他人も取合ざれば生涯交際も出來ぬ狀態なりしが醫道開け諸種の難病も全治する今日は癲癇の如きも其病理解明せられ隨つて此病に卓効ある良藥も發見するに至れりされば今日は如何なる難症のてんかんなりとも必らず全治することあるは名醫の夙に唱道する所にして蘇神丸とは卽ち此新藥なり「傳人と癲癇病との關係を添よ」

蘇神丸 藥價 百日分 金參圓（送料八錢） 三十日分 金一圓三錢（送料二錢）

本舗 東京市日本橋區藥研堀町四十三番地 藥劑師 高木與八郎

定 延命 本

定丹

定價 百粒入十錢二百十粒入廿錢五百五十粒箱入五十錢

胸腹の痛を去り心思鬱閉を散じ頭痛眩暈留飲を治し叫瀉痢病を止め舟車魚肉の醉痰咳過酒の苦を忘れしめ毎に食後服用すれば食あたり食物停滯胃病の患なく精神快爽ならしめ百事勉勵心を誘起せしむる良藥也

同名又似寄偽藥數多有商標及いとや號に御注意を乞ふ

本舗 東京市馬喰町三丁目看店 いとや又兵衛

齋 舗

此廣告を見て御取引の御方は「風俗畫報」廣告に據る旨御附記を乞ふ

プレスト洗粉

本品の特色は最も皮膚に有効な原料を以て精製し たる者なれば色白く肌滑らかにひしらなから

（定價）

大袋入	二十五錢	
同袋入	七十錢	
同鑵入	壹十五錢	
特別	壹圓	

本舗 東京牛込 山本玉川堂

尾形月耕著

新撰 **東京名所畫譜** 全壹冊

畫伯尾形月耕先生の筆力勁健にして趣向奇拔なるは世の知る所なり、本書收むる處（一）宮城の廣庭（二）馬場先門（三）半藏門（四）日比谷大神（五）日本橋（六）芝公園辨天の池（七）江戸見坂（八）星ヶ岡日枝神社（九）芝浦（十）大川より月島を望む（十一）深川公園（十二）洲崎（十三）向島弘福寺（十四）十二社（十五）廣尾（十六）洗足池（十七）多摩川丸子の淵（十八）中川等なり斯道に學ぶの輩は勿論好畫の士は須臾も離す可からざる珍本なり

木版彩色刷 英文圖解附 正價金貳圓 郵稅金八錢

丕象庵小觀金山著

人生哲理 命名心法 全壹冊

本書は姓名を以て人の吉凶を判斷するの原理を說明したるものにして人生の生理より說き音聲の原理に及び天地の原理に考へて姓名を判斷する占筮の法を簡明に說明したるものにして家庭命名には必要缺く可からざるものなり

正價金六十錢 郵稅金六錢

東京市神田區蓮新石町 發行所 東陽堂

麗の華山人著自筆四百餘圖挿入

◎江戸繪本風俗往來　全二冊　定價金一圓六十錢　郵税金一錢

著者ハ生粋ノ江戸ッ兒生來六十年間親シク親タルマヽヲ此ノ師ノ如ク宮ヒ集メシ年中一切ノ行事ナリ是ヲ見レバ幕府盛時ノ江戸風俗遺德ナク知ルヲ得ベシ必ズ備フベキ珍書ナリ

兼松置門先生著

◎竹田と華山　全一冊　定價金五十五錢　郵税金八錢

曩ニ日本畫沿革史ヲ著シタル兼松置門畫伯ガ抑揚ノ餘暇親シク竹田華山ノ墳墓ノ地ニ就キ幾多幾代ノ遺墨ヲ見世間未聞ノ逸事ヲ探リテ細大之ヲ錄出シテ其ノ畫家タルノ見地ヨリ從橫表裏詳論クシモ假借ナク加フルニ同朋ノ筆ヲ揮ヒテ則圖ノ文詞ヲ弄シ序事記述共ニ從來ノ傳記ニ一テラヌシテ正ニ繪事評論ノ一新例ヲ示シタルモノナリ凡ソ畫ヲ愛スルモノハ必ズ一讀シテ兩大家ノ見識ト其技術トヲ窺ヒ特ニ畫ヲ學ブモノハ之ニヨリ大ニ發明スル所ナクンバアラズ

帝國圖書館司書太田資三郎君著

◎日本隨筆素引〔總クロース金文字入〕全一冊　定價金一圓五十錢　郵税金八錢

本書ハ讀書家搜索ノ便利ヲ目的トシ徒勞ノ費ナクシテ直チニ其ノ事項ヲ見出スルヲ期シ太田君ガ辛苦經營三年ノ日子ヲ費シ諸名賢ノ隨筆書一百六十四種ヲ收メ一萬六千條ノ件名ヲ掲ゲ總テ五十音ノ假名順ニヨリ排列シテレバ容易ニ其ノ出處ヲ搜リ得ルコト恰モ懷中ノ物ヲ探ルガ如シ實ニ掛海波求珠見寶ノ名手段ニシテ讀書家ノ絶好指針ナリト云フベシ

松琳伊藤元証先生著○竹島土耙頼晴翁書（續巧石版摺）

◎百體福祿壽　全一冊　定價金三十錢　郵税金四錢

百福百壽ノ字體古來傳ハル處ノモノ頗ル和壞シテ見ルヘキモノ鮮ナシ況ンヤ百祿ノヤ本書ハ篆字ノ名手竹島翁ノ書ニシテ字々悉ク活動神氣充溢ス染織ノ工ハ以テ好標ト爲スベク文人墨客基右ノ銘長孝總テ心神自ラ快悅タラン

發行所　東京神田新石町　東陽堂

續木國刻　（續巧石版摺最大形）

◎佩文齋耕織圖　全一冊　定價金一圓五十錢　送料小包二百匁送

此書ノ清ノ康熙二十五年欽定セシモノニテ耕織ノ部二十三圖機織ノ部二十三圖一々康熙帝ノ御觀ヲ捕ム殿本吉雅ニシテ圖ハ殿堂時技ノ精巧石版刷ナリ菊モ風、繪ニ志アルモノハ紅典モ缺ク可カラザル珍本ナリ

根本羽嶽　石川鴻齋　小松愚山諸先生校閲
小松冬嶺　森枫南　野口寧齋先生評

◎朝鮮選史　平壤誌　乾、坤　全二冊　定價唯製（帙入）金一圓廿五錢　小包二百匁　郵税十錢

朝鮮八道中江山秀麗形勝雄壯ナルモノ平壤ニ若クハナシ皇國ノ海外ニ施キ我歷史上最關係アルモノ亦平壤ニ若クハナシ原著ハ三百餘年前ニ成リ著所舊跡風俗ヨリ人物歷史詩文等ニ至リ迄三十餘類ニ分チ編セシモノニテ原版ハ我征韓ノ役ニ烏有ニ屬シ刷本又散逸シタルヲ百方尋難ヲ重ネ漸ク全編ヲ完カラシム軍人政治家劇士ヲ問ハズ樞要ノ珍書ナリ

朝鮮選史

◎一大奇書

白龍先生著

◎草書千字文　全一冊　定價金三十錢　郵税金二錢

白龍山人ノ畫ニ巧ミナルハ世人ノ感スル所而シテ未ダ其書ニ妙ナルヲ知ルモノ少シ山人極メテ草書ニ巧ニシテ其運筆縱橫潑墨ノ妙龍天門ニ跳リ虎風闕ニ臥スルノ概アリ此帖ヲ繰カバ必ラズ其眞價ヲ窺知スルヲ得ベシ

◎白龍遺稿　全一冊　（帙入）定價金一圓　送料小包二百匁送

山人繪事ニ著目スル處常人ト異リ本讀映描スル處皆尋常ニ非ズ其筆ノ活動丘壑樹木雲烟紙中ニ溢レ飛潛花卉鳥獸跳ルガ如シ殊ニ石版印刷ノ精妙ヲ盡シタレハ彌々眞ニ入リテ眞ニ出ルノ奇觀ヲ備ヘタリ

發行所　東京神田新石町　東陽堂
（振替口座一一九〇六番）

此廣告を見て御取引の御方は「風俗畫報」廣告に據る旨御附記を乞ふ

東宮侍講　本居豐穎大人序
款冬園　關谷可眞翁大人撰

◎天覽人麿考　寫眞版　銅版圖六面入

和裝美本　定價金壹圓貳拾錢　郵税八錢

柳本朝臣人麿は歌を以て世に名高き人なれども其傳を委しく記せる書なし關谷先生夙にこれを遺憾とし博く諸書に稽へ精しく舊跡を温ねて大に得る所あり千古の疑團煥然氷釋し人麿傳茲に完成せりと謂べし本居先生此書に序して著者が年比深く心を盡し博く考へ渡されたる程知られて落る隈なく遺る憾も無きが如し又歌の論らひ詞の解釋など世ノ人の未だ想ヒ到らざりし新說も見えていと珍らかなり斯道の爲に斯ばかり意を盡す人今ノ世には類ひ多からじとこそ思はるれと云はれたる如く曾だ國史の遺漏を補ふに止まらず歌の講義古言の解釋など皆的確なる考證を擧て懇切に講說せられたり一たび此書を繙けば往昔の人に接して其言語人情風俗を親しく見聞するが如し人麿の事蹟を知らむと欲する人は勿論苟も歌道に志ある人は必ず一讀すべき無比の良書なり

東京市神田區通新石町三番地
發行所　東陽堂
電話本局九七〇番

獨逸人エーマン氏譯文

◎錦乃御旗　全一冊　著色畫　四拾葉圖　縮一　茨木縣一尺〇三分　幅八寸

原名戊辰戰記繪卷　正價金參圓郵税金拾八錢

本書は明治中興の端緒なる鳥羽伏見の戰役を圖記せるものにして當時の實戰者たる林子爵及東久世伯爵の計畫に基き圖畫を改むる數十回歲を閱する六次にして明治廿二年始て竣成し原本を宮中に獻して乙夜の覽に供し同廿四年條勳會に於て其副本に戰記を附し之を會員に頒布したる非賣品なり帝堂今次同會と協議し圖畫に著色して一層の光彩を添へ獨逸人エーマン氏の譯文を加へ錦の御旗と題し廣く世の需に應ずることゝせり本書繪く處の服飾は遺物に徵し地理は實踐に取り一も臆測に出るものなく戰役參與將校の審査を經たれは當時戰役に關する百般の狀態と目擊然として時勢の變遷を觀るへく維新歷史の參考として諸學校は勿論家庭教育上に資するを得べし希くは明治聖代記念として御購求あらんことを

東京市神田區通新石町三番地
發行所　東陽堂支店
（電話本局九百七十番）
（郵便振替貯金口座番號　東京九〇六番）

宮内省博物館御編製

新撰畫鑑

（畫箋紙柾紙裏打大形石版摺）

第二編（一二）（三四）全二冊
帙入 定價金十圓
送料小包八百匁迄

右ハ御物ヲ初メ各華族貴顯及諸大家ノ珍藏ニシテ容易ニ世人ノ觀覽シ難キ名畫數百種ヲ蒐集セシモノニテ遠クハ阿佐太子藤原經隆ノ遺蹟ヨリ土佐狩野家歷代ノ名蹟近クハ天明文化時代ニ至ルモノ支那ニアリテハ唐王摩詰ヨリ宋元明清ノ大家馬速夏珪顏暉趙昌等ハ勿論近世沈南蘋等ニ至ル迄ノ遺墨中最モ有名ナル者ヲ精撰セラレタレバ畫家考古其他苟クモ繪畫ニ心アルモノ坐右必備ノ珍本ナリ醫キニ幕堂宮内省ヨリ印刷發賣ノ命ヲ受ケシニヨリ殊更熟練ナル職工ヲ撰ミ之ヲ寫眞石版ニ印刷シタレバ一目其眞ヲ見ルト異ル處ナシ

圓山應擧畫○寺崎廣業先生摹

難福圖卷物

精巧石版彩色摺

編一卷 全三卷 函入
定價金五圓
送料小包四百匁迄

此卷物ハ有名ナル三井寺ニ珍寶トシテ秘藏セラルヽ處ノ故圓山應擧ガ多年丹精ヲ凝シテ描キタル七難七福ノ圖ヲ弊堂獨得ノ妙技ヲ以テ石版印刷ニ刷シタルモノニシテ他ニ比類ナキ至珍ノ繪卷物ナリ

渡邊華山翁遺墨

一掃百態

（木版彩色摺）

全一冊 定價金一圓 送料郵税金六錢

本書ハ華山翁ガ文墨ノ餘瀝ニ成レル正慶元享ノ頃ヨリ翁ガ當時ニ至ル百般ノ風俗ヲ細大漏サズ描寫セシノ氣韻自ラ高邁健筆一掃ノ間百態ノ人事歷々掌ヲ指スガ如シ

石川鴻齋先生著○穗庵、楓湖、永濯、米僊畫伯密畫

夜窓鬼談

上、下 全二冊 帙入
定價金二圓
送料小包二百匁迄

本書ハ碩儒鴻齋翁得意ノ快筆ヲ以テ怪談鬼話ヲ莫メタルモノニテ全編諷諭ヲ以テ骨髓トシ怪談ヲ籍リテ皮相トシタルモノナレバ世教ヲ益スルコト實ニ尠少ニ非ズ冀クハ一本ヲ繙テ以テ翁ガ眞意ノ存スル所ヲ知リ給ハムコトヲ

渡邊知三郎君編○宮岡永洗畫伯插畫

忠孝血涙譚

全一冊 定價金五十五錢 送料郵税金四錢

本書ハ華山渡邊登先生逝生以來ノ事蹟ヲ細大漏サズ序ヲ追フテ纂錄ス行文平易兒女ニモ諷ミ易キ小說體ノ詳傳ナリ世ニ先生ノ傳記ヲ錄セシモノ數多アレドモ恐クハ此書ノ右ニ出ツルモノナカラン

發行所 東京神田通新石町 東陽堂支店
（振替口座一一九〇六番）

此廣告を見て御取引の御方は「風俗畫報」廣告に據る旨御附記を乞ふ

觀櫻探勝の好時節來

花乃春ゆり 小金井名所圖會

全壹冊
定價金二十五錢
郵税金一錢五厘

挿畫

（表紙）國分寺停車場の圖
（口繪）小金井櫻の圖
▲小金井附近名勝新圖
▲小金井の春興
▲中野三重塔の圖
▲堀の内祖師堂開帳の圖
▲大宮八幡神社の圖
▲井の頭辨天池の圖
▲國分寺の圖
▲同上仁王門の圖
▲府中大國魂神社の圖
▲多摩川の景
▲小金井橋
▲小金井の堤
▲淀橋水車
▲堀の内妙此寺
▲大宮八幡宮
▲井の頭辨天
▲國分寺の舊蹟
▲國分寺の敗瓦
▲國分寺村の炭竈
▲六所宮祭禮
▲同田植の神事
▲分倍河原の陣街道

小金井の地櫻花を以て名あり市を距る數里に過ぎず、近事汽車の便利あり往て觀るもの陸續絶えざるも其の地野外に在るを以て風趣清爽尚ほ雅客を容るゝに堪へたり此の書小金井に關する事實は勿論其の附近沿道の古蹟名勝を詳記し併せて數十の繪畫を挿入し以て探勝家の指針と爲す名花創植の事由考古資料共に探るべし

新選東京名所圖會 上野公園
全二冊
正價金參十錢
郵税金一錢五厘

新選東京名所圖會 隅田堤
全參冊
正價金四十五錢
郵税金貳錢

發行所 東京神田區通新石町 東陽堂
振替貯金口座一一九〇六番